

小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

第1 点検及び評価の対象及び実施日

対 象 令和7年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況

実施日 令和8年7月13日

第2 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和7年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和7年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第3 点検及び評価の結果

点検評価シート（令和7年度実績）に記載

令和 7 年度の重点施策

基本目標 1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

- ☞ 人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。
- ☞ 理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策1）	担当課 学校教育課																																								
内 容	「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりや、「探究的な学び」に役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修を効率的・効果的に実施します。																																									
達 成 状 況	・各小中学校においてO J Tを推進するとともに、学校経営や授業づくりに必要な専門的スキルと資質を高める研修や、学校現場での課題に対応するための研修を行いました。 ・教育委員会において参加者のニーズを踏まえ、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技研修や座学研修を行いました。 ・小牧市全教職員を対象に、小牧がこれまで取り組んできた「学び合う学び」の成果と課題を確認し、「探究的な活動」等、これからの小牧の教育について考える機会として教育講演会を開催しました。 ・教育現場でのI C T機器の効果的な活用について考える研修を行いました。 ◆主な研修の種類<table><tr><th rowspan="2">研修項目</th><th colspan="3">参加延べ人数</th></tr><tr><th>R7 年度</th><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th></tr><tr><td>現職教育研修（研修参加人数）</td><td>894 人</td><td>926 人</td><td>923 人</td></tr><tr><td>新任・少経験・経験教員研修</td><td>190 人</td><td>183 人</td><td>262 人</td></tr><tr><td>校長・教頭・教務主任・校務主任等研修</td><td>778 人</td><td>747 人</td><td>617 人</td></tr><tr><td>専門研修（教育課題への対応）</td><td>258 人</td><td>322 人</td><td>266 人</td></tr><tr><td>専門研修（教職専門性の向上）</td><td>556 人</td><td>461 人</td><td>940 人</td></tr><tr><td>特別研修</td><td>348 人</td><td>356 人</td><td>448 人</td></tr><tr><td>教育講演会</td><td>762 人</td><td>725 人</td><td>558 人</td></tr><tr><td>中堅教員国内派遣研修</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td></tr></table>			研修項目	参加延べ人数			R7 年度	R6 年度	R5 年度	現職教育研修（研修参加人数）	894 人	926 人	923 人	新任・少経験・経験教員研修	190 人	183 人	262 人	校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	778 人	747 人	617 人	専門研修（教育課題への対応）	258 人	322 人	266 人	専門研修（教職専門性の向上）	556 人	461 人	940 人	特別研修	348 人	356 人	448 人	教育講演会	762 人	725 人	558 人	中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人	2 人
研修項目	参加延べ人数																																									
	R7 年度	R6 年度	R5 年度																																							
現職教育研修（研修参加人数）	894 人	926 人	923 人																																							
新任・少経験・経験教員研修	190 人	183 人	262 人																																							
校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	778 人	747 人	617 人																																							
専門研修（教育課題への対応）	258 人	322 人	266 人																																							
専門研修（教職専門性の向上）	556 人	461 人	940 人																																							
特別研修	348 人	356 人	448 人																																							
教育講演会	762 人	725 人	558 人																																							
中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人	2 人																																							

点検評価シート（令和7年度実績）

課 題	・「学び合う学び」や「探究的な活動」が、かたちだけの取組とならないように、教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。 ・教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。 ・集合研修、オンライン研修、動画活用など、実施方法についても検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・評価を含めた授業づくり、1人1台端末の活用を含めたICT教育の研修などを充実させます。 ・教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。 ・「学び合う学び」や「探究的な活動」を進める教員の力量向上のための研修を引き続き企画します。 ・経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法等、より具体的な事例を挙げ効果的なOJTを進めます。 ・オンライン研修、動画を活用した研修も推進していきます。
評価委員の意見等	・「学び合う学び」を土台にしながら「探究的な学び」を充実させることで、一人ひとりの生徒が、学びの良さを実感し、自ら学ぶ力を高めていくよう、学校や市のレベルの授業研究や教員研修の充実を図っていただきます。 ・「学び合う学び」を基本目標として20年になります。学び合う学び方を学ぶという「協同と探究」を理念とする、社会に出てからも通じる大切な基本方針を、各校において今一度原点に戻って確認し合う必要性を感じます。 ・総合的な学習の時間を拡充して、こまき「夢☆チャレンジ」科とし、My探究とテーマ探究の2本柱で小牧独自に始めたことは画期的なことであり、次期学習指導要領を見据えた先見の明は素晴らしいと思います。その取組が、どういう成果や課題を生んでいるか、現状を注意深く見て必要な研修や改善を施す必要があると思います。 ・ニーズを踏まえた多様な研修の実施を評価します。経験の少ない教員の増加を見据え、具体的事例に基づくOJTの充実と、多忙化に配慮した効率的な研修計画の工夫が望まれます。 ・「探究的な活動」は、地域と関わりながらの社会性や主権者意識養成の場として重要な学習機会であると考えます。児童・生徒目線での興味や関心を集約したり、活動事例を共有したりするなどして、今後役に立つデータや資料を収集することで、意義深い学習活動として定着させていただきたいです。

点検評価シート（令和7年度実績）

	・子どもたちが『学んでよかった』『もっと学びたい』と思うことができ『分からない』が言いやすい環境にして欲しいです。 ・一人ひとりのこどもに対して、「問い」や「夢」を育む授業づくりのため、教員相互の学び合いや、ベテランから若手への実践知の継承を図ってください。 ・「夢☆チャレンジ」科の成果も大切ですが、探究の過程を授業研究として、研究協議することも大切だと思います。 ・「学び合う学び」については、若手の教員に対しても、十分に研修を実施してください。
--	---

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	I C Tを活用した学びの充実（施策3）	担当課 学校教育課																												
内 容	第2次小牧市学校教育 I C T推進計画に基づき、I C T教育のパイオニア校において、クラウドサービスや1人1台端末を効果的に活用した学びについて研究・実践します。																													
達 成 状 況	・第2次小牧市学校教育 I C T推進計画に基づき、I C T教育のパイオニア校（小牧南小・篠岡中）において、クラウドサービスや1人1台端末を効果的に活用した学びについて研究・実践しました。 ・学校では、こどもが授業支援ソフトウェアに毎時間の振り返りを入力・蓄積して、自分の考えの変容や深まりを実感したり、次時の目標を具体的に立てることができました。また、共同編集機能により、リアルタイムでクラスメートの多様な考えに触れ、学びを深めることができました。 ・教員はこどもたちの振り返りデータから、授業のねらいに即した学びになっているかを確認したり、次時の授業展開の参考としました。 ・I C T支援員が各校を月4回程度訪問し、I C T機器を活用した教材・実践例の紹介や提案等による授業支援を行ったり、校内研修の支援を行いました。 ◆1日1回以上タブレットを活用しているクラスの割合 <table><tr><td></td><td>令和7年12月</td><td>令和6年12月</td><td>令和5年12月</td></tr><tr><td>小学校</td><td>63.8%</td><td>65.1%</td><td>64.2%</td></tr><tr><td>中学校</td><td>92.9%</td><td>91.3%</td><td>81.1%</td></tr><tr><td>市全体</td><td>71.0%</td><td>71.3%</td><td>68.4%</td></tr></table> ◆パイオニア校アンケート結果 <table><tr><td>項目</td><td>R7年12月</td><td>R6年12月</td><td>R5年12月</td></tr><tr><td>タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合</td><td>91.1%</td><td>87.7%</td><td>—</td></tr><tr><td>授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合</td><td>96.4%</td><td>97.8%</td><td>95.1%</td></tr></table>			令和7年12月	令和6年12月	令和5年12月	小学校	63.8%	65.1%	64.2%	中学校	92.9%	91.3%	81.1%	市全体	71.0%	71.3%	68.4%	項目	R7年12月	R6年12月	R5年12月	タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	91.1%	87.7%	—	授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合	96.4%	97.8%	95.1%
	令和7年12月	令和6年12月	令和5年12月																											
小学校	63.8%	65.1%	64.2%																											
中学校	92.9%	91.3%	81.1%																											
市全体	71.0%	71.3%	68.4%																											
項目	R7年12月	R6年12月	R5年12月																											
タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	91.1%	87.7%	—																											
授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合	96.4%	97.8%	95.1%																											

点検評価シート（令和7年度実績）

課 題	・ 日常の授業でより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や発達障がいなど、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でＩＣＴを活用していく必要があります。 ・ 次世代の校務ＤＸに向けて、クラウドツールを活用し、校務の効率化・ペーパーレス化を進める必要があります。
今後の取組の方向性	・ 不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援・相談、校務ＤＸなどにおいて、ＩＣＴの活用を推進します。 ・ ＦＡＸ及び押印等の見直しも含めて、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を推進します。
評価委員の意見等	・ ＡＩの活用法や、利用ガイドラインは喫緊の課題です。使いすぎや依存には十分に注意をはらいながら、個性の尊重、思考力の育成、仲間との交流支援のためのＡＩの活用方法を模索していくべきと考えます。 ・ 国は、「リアルな学びをデジタルで支える」の方針を示しており、タブレットを使うことが目的ではなく、真に学びを深める道具としての位置づけをしていますので、この視点での授業改善の必要性を感じます。 ・ 情報モラルは情報処理能力に含まれる重要な学習基盤です。メリットばかりでなくデメリットがあることを含め、正しい使い方を系統的に指導する必要性を感じます。 ・ 振り返りデータの蓄積や共同編集の活用など、１人１台端末を学びの深まりにつなげる実践は高く評価できます。今後は困難を抱える児童生徒への支援や校務ＤＸへの活用拡大を進めていただきたいと思います。 ・ 施策１４「ＩＣＴ機器の整備・充実」とも関連することですが、学校現場での生成ＡＩなどのツールの利用については手探りの段階だと思います。教育機器としての有効活用については喫緊の課題であり、積極的に取り入れるためのマニュアルやルールづくりの取組に期待しています。 ・ ＩＣＴの活用については、今後も必要なことだと思いますので、ＩＣＴ支援員の来校回数を増やすため、ＩＣＴ支援員の拡充を期待します。 ・ こどもたちの振り返りを、ＩＣＴ機器を活用してデータで残すことは、便利であると思いますが、ＩＣＴ機器のみを活用した授業では、言語能力は育ちにくいと感じるため、こどもたちの振り返りを手書きさせる従来の方法を見直し、取り入れるべきだと思います。 ・ 愛知県教育委員会が作成した情報モラル教材の「ＧＩＧＡワークブックあいち」がとても良い教材ですので、こどもたちへの情報モラル教育の際に上手に活用できると良いと思います。

点検評価シート（令和7年度実績）

	・情報化の急速な進展に、教育も社会も追いついていないと感じることがあるため、研修を実施するなどして、授業でのＩＣＴ機器の活用方法等について考えていく必要があると思います。 ・教員の多忙化解消に向けて、ＡＩツール等を活用しながら、校務ＤＸに取り組んでいただきたいと思います。しかしながら、ツールの活用に慣れていないと必要以上に時間を要するため、ツールの活用方法の研修を実施するなどし、校務の効率化を図ってください。
--	--

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課 学校教育課																	
内 容	特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細かに支援するため、学校生活サポーターを増員し、教員や特別支援教育相談員などとの連携により支援体制を充実します。																		
達 成 状 況	- 各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を支援する「学校生活サポーター」を増員し、支援の充実を図りました。 - 学校生活サポーターは、児童生徒が学習課題を行う際の手助けや、他の学級との交流及び共同学習のための教室移動の付添いなど、担任と相談しながら個々の児童生徒の状態に応じた支援を行いました。 - 学校生活サポーターへの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の方法などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。 <table><tr><th>項目</th><th>R7 年度</th><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th></tr><tr><td>特別支援教育介助員</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>学校生活サポーター</td><td>22 人</td><td>21 人</td><td>18 人</td></tr><tr><td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td><td>384 人</td><td>361 人</td><td>324 人</td></tr></table>			項目	R7 年度	R6 年度	R5 年度	特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人	学校生活サポーター	22 人	21 人	18 人	特別支援学級に在籍する児童生徒数	384 人	361 人	324 人
項目	R7 年度	R6 年度	R5 年度																
特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人																
学校生活サポーター	22 人	21 人	18 人																
特別支援学級に在籍する児童生徒数	384 人	361 人	324 人																
課 題	- 平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒が、地域の学校への就学を希望することが増えてきています。 - 外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。 - 特別支援学級に入級する児童生徒が年々増加しており、学級数が増えてきています。(R5 : 73 学級 R6 : 79 学級 R7 : 83 学級)																		
今後の取組の方向性	- 支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、令和 8 年度は 22 名体制を維持します。 - 今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。																		
評 価 委 員 の 意 見 等	「学校生活サポーター」の人員配置が年々増加していることは、支援を必要とする児童生徒にとって好ましいことです。さらに、実態としてどのような効果や課題があるかを明らかにして、中長期的な支援体制の充実を目指してください。																		

点検評価シート（令和7年度実績）

	・ 支援の必要な児童生徒数に比例しての配置が必要です。また、業務内容も多岐にわたり、教諭と変わらないことから、少しでも待遇の改善があればと思います。 ・ 特別支援学級の在籍者が増加する中、「学校生活サポーター」を増員し合同研修で支援の質を高めている点は評価できます。今後も児童生徒の状況に応じた適切な配置が継続できるよう、必要な体制の確保をお願いします。 ・ 特別支援教育は、今年開催の第5回アジアパラ競技大会を契機として、パラスポーツの観戦や情報収集などを通した一層の関心の高まりに期待しています。そして、児童生徒を積極的にサポートするという観点から、「できること」にチャレンジするという積極的な考え方も重要だと思います。 ・ 特別支援学級の児童が増えているため、「学校生活サポーター」の拡充も必要ですが、特別支援学級の担任と「学校生活サポーター」の情報共有がしやすく聞きやすい環境作りも必要だと思います。
--	--

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	必要に応じた語学相談員の配置（施策 5）	担当課 学校教育課																																	
内 容	日本語教育が必要な児童生徒の支援体制において、語学相談員を配置し、通訳、翻訳、学習支援、進路相談などを行うことにより、外国人児童生徒の教育の充実を図ります。																																		
達 成 状 況	・平成 30 年度から、語学相談員等のマネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和 6 年度より、ポルトガル語 6 名、スペイン語 5 名、タガログ語 6 名、中国語 3 名、ベトナム語 2 名の計 22 名の語学相談員（日本語初期教室を含む）を配置しました。 ・日本語指導員を巡回 2 名配置し、日本語の指導を行いました。 ・来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約 3 ヶ月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導するとともに、母語の個別指導も実施しました。 <table><tr><th rowspan="2">場所</th><th colspan="3">入室児童生徒数</th></tr><tr><th>R7 年度</th><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th></tr><tr><td>にじっこ教室（大城小学校内）</td><td>4 人</td><td>13 人</td><td>10 人</td></tr><tr><td>分室（適応指導教室カルミア 1 階）</td><td>27 人</td><td>23 人</td><td>24 人</td></tr></table>			場所	入室児童生徒数			R7 年度	R6 年度	R5 年度	にじっこ教室（大城小学校内）	4 人	13 人	10 人	分室（適応指導教室カルミア 1 階）	27 人	23 人	24 人																	
場所	入室児童生徒数																																		
	R7 年度	R6 年度	R5 年度																																
にじっこ教室（大城小学校内）	4 人	13 人	10 人																																
分室（適応指導教室カルミア 1 階）	27 人	23 人	24 人																																
課 題	・ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語やベトナム語の児童生徒が年々増えており、多言語化が進んでいます。また、日本語が不自由な児童生徒は減少していますが、全児童生徒数に対する割合は横ばいです。 <table><tr><th>項目</th><th>ポルトガル語</th><th>スペイン語</th><th>タガログ語</th><th>中国語</th><th>ベトナム語</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>R7 年度</td><td>297 人</td><td>186 人</td><td>217 人</td><td>56 人</td><td>62 人</td><td>79 人</td><td>897 人</td></tr><tr><td>R6 年度</td><td>318 人</td><td>195 人</td><td>243 人</td><td>53 人</td><td>44 人</td><td>72 人</td><td>925 人</td></tr><tr><td>R5 年度</td><td>325 人</td><td>203 人</td><td>275 人</td><td>48 人</td><td>34 人</td><td>60 人</td><td>945 人</td></tr></table> ※その他（13 ヶ国語）：英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、インドネシア語等			項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	ベトナム語	その他	合計	R7 年度	297 人	186 人	217 人	56 人	62 人	79 人	897 人	R6 年度	318 人	195 人	243 人	53 人	44 人	72 人	925 人	R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	34 人	60 人	945 人
項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	ベトナム語	その他	合計																												
R7 年度	297 人	186 人	217 人	56 人	62 人	79 人	897 人																												
R6 年度	318 人	195 人	243 人	53 人	44 人	72 人	925 人																												
R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	34 人	60 人	945 人																												
今後の取組の方向性	・多言語化に対応するため、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。 ・出入国管理法の改正の影響を注視し、多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合に対応できるよう、引き続き新たな施設の確保を検討します。 ・語学相談員に研修を行うなど、能力・意欲の向上に努めます。																																		
評価委員の意見等	・外国人児童生徒一人ひとりの日本語能力、適応能力をよく見極めることが何よりも大切です。例えば、取り出し指導も個別に指導																																		

点検評価シート（令和7年度実績）

	できる良い面と、取り出せばその時間は母学級から抜けて、学級での動きが何も分からない状態をつくることになります。どちらがより適切か、ひとえに一人ひとりに合った指導環境を模索することに尽きると思います。 ・語学相談員と日本語初期教室による支援は、多言語化に対応する重要な取組です。相談員一人あたりの児童生徒数は改善しており、初期教室の体制増強と施設確保を着実に進めていただきたいと思います。 ・施策11「児童生徒に対する学習支援の実施」とも関連することですが、「日本語初期教育」と「駒来塾」は、外国人児童生徒にとっては将来の進路を考える上で極めて関連が深いものだと思います。その観点での連携や指導体制づくりが大切だと思います。 ・日本語が不自由な児童生徒の増加に伴い、語学相談員の拡充も必要だと思います。
--	---

基本目標 2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

- ④ 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。
- ④ 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		児童生徒の心のケアの実施（施策6）		担当課 学校教育課																
内 容	スクールソーシャルワーカーを配置し、貧困やネグレクト、ヤングケアラーなどといった家庭環境に要因がある児童生徒の支援体制を強化します。学校・家庭・地域との連携により不登校の未然防止を図るとともに早期対応を強化します。																			
達 成 状 況	・スクールソーシャルワーカーは平成27年度に1人配置され、平成30年度からは2人配置となり、令和4年度からは3人配置となり、令和5年度からは4人配置となりました。 ・スクールソーシャルワーカーの配置人数が増え、より多くの学校に派遣できるようになったことで、各校でのスクールソーシャルワーカーに対する理解度が深まり、より連携してケースに対応できるようになりました。 <table><tr><td></td><td colspan="3">スクールソーシャルワーカー活動実績</td></tr><tr><td></td><td>R7年度</td><td>R6年度</td><td>R5年度</td></tr><tr><td>スクールソーシャルワーカー人数</td><td>4人</td><td>4人</td><td>4人</td></tr><tr><td>訪問活動回数</td><td>1,659回</td><td>1,249回</td><td>1,167回</td></tr></table>					スクールソーシャルワーカー活動実績				R7年度	R6年度	R5年度	スクールソーシャルワーカー人数	4人	4人	4人	訪問活動回数	1,659回	1,249回	1,167回
	スクールソーシャルワーカー活動実績																			
	R7年度	R6年度	R5年度																	
スクールソーシャルワーカー人数	4人	4人	4人																	
訪問活動回数	1,659回	1,249回	1,167回																	
課 題	・ひとり親や貧困の家庭などの増加により、支援が必要な子どもや家庭が抱える課題や問題は多岐にわたり、解決には多くの時間や人員などを要します。 ・学校と関係機関（警察・児童相談所・福祉事務所・市役所関係部署など）の連携を密にする必要があります。																			
今後の取組の方向性	・学校と情報共有し、早期対応に心がけていきます。 ・より多くの学校にスクールソーシャルワーカーを派遣できるようにするため、令和6年度からは2人増員し、6人体制を目指しています。																			
評価委員の意見等	・スクールソーシャルワーカーの人数は頭打ちになっていますが、ニーズに応えられているかを検証し、教師の働き方改革を進めながら、他職種連携を校内で深めていくことが求められています。 ・増え続ける相談件数を4人体制で対応するのは大変だと思います。																			

点検評価シート（令和7年度実績）

	6人への増員ができればよいのですが、往々にしてスクールソーシャルワーカーに頼りすぎないようにしていただきたいと思います。 ・スクールソーシャルワーカーの増員と訪問回数の増加により、連携した対応が進んでいる点を評価します。6人体制を目指す方針を支持するとともに、関係機関との緊密な連携と早期対応が望まれます。 ・児童生徒の心のケアについては、貧困、ヤングケアラーなど家庭環境が要因であることも多くあり、学校の対応にも限界があると思います。そのため、校内組織の充実や関係児童生徒への対応を中心に外部の関係諸機関のそれぞれの専門性を生かした対応や連携に期待しています。 ・スクールソーシャルワーカーは毎日来校する訳ではないので、子どもたちにとって話しやすい雰囲気（身だしなみや話し方など）がとても大切だと思います。
--	---

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	こどもの発達段階に合わせた図書館資料の選書・充実 （施策8）	担当課
		図書館
内 容	こどもが郷土への理解と愛着を深められるよう、小牧について学べる「ふるさとカルタ」を作成するなど、こども向けの郷土資料の充実を図ります。	
達 成 状 況	「こまきふるさとカルタ」（全46句）の作成 ・読み句の選定は、司書が様々な小牧の郷土資料を参考にしながら、地域や年代のバランス等を考慮して行いました。読み句は五・七・五調とし、平易な言葉を用いることで記憶に定着しやすく、馴染みやすい内容としました。 「こまきふるさとカルタ」の活用状況 ・9/13（土）～9/20（土）、中央図書館1階イベントスペースの壁面全面を使用して大判カルタ展示を行い、最終日には大判カルタ大会を実施しました。（参加者：幼児から大人まで計49人） 11/18（火）には、中央図書館見学时に、カルタを使ったミニ郷土クイズを実施しました。（小牧原小学校：2年生89人）	
課 題	・専門性の高い郷土資料をこども向けにわかりやすく編纂した資料の数は依然として少なく、今後も様々な形で資料の収集に努める必要があります。 ・完成した「こまきふるさとカルタ」の知名度もまだ十分ではないため、今後も、様々な機会に宣伝、広報、イベント実施などを通して周知、活用を促していく必要があります。	
今後の取組の方向性	・引き続き「こまきふるさとカルタ」を活用し、こどもが郷土への理解と愛着を深められる機会を提供します。 ・「すべての人が楽しめる」ことを目的に、「こまきふるさとカルタ」のバリアフリー版（点訳版・音訳版）を作成し、図書館所蔵資料として活用します。 ・こども向け郷土資料を集めた児童郷土コーナー（棚）を図書館・各図書室に整備します。	
評価委員の意見等	・「こまきふるさとカルタ」を通して、こどもの読書習慣の形成につながるような支援をお願いします。 ・現時点では、1セット程度しか普及されていないとのことですが、文字通りふるさと小牧を楽しく学ぶにふさわしいものですので、市内への普及・活用を望みます。 ・「こまきふるさとカルタ」の作成は、司書の専門性を生かし、こどもが楽しみながら郷土への愛着を深められる優れた取組です。今後は知名度の向上が鍵となるため、こどもが集まる場と連携した活用	

点検評価シート（令和7年度実績）

	機会の拡大や、点訳版・音訳版の作成による「すべての人が楽しめる」資料としての充実を望みます。 ・ こどもたちの「地域アイデンティティ」を育成するために、小牧の郷土資料を参考にして作成した「こまきふるさとカルタ」を活用した取組を学校と連携して進めていただきたいと思います。
--	--

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導 (施策10)	担当課
		学校給食課
内 容	望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理などへの関心や、食に対する知識と理解を深めます。	
達 成 状 況	・栄養教諭5人、栄養職員1人が市内各校を巡回し、家庭科や給食の時間などを活用して、カルシウムの大切さなどの栄養バランスや、小牧や愛知の特産物などの食育指導を行いました。 ・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取組を行いました。(センターごとの対応で延べ40回～80回程度実施) ・6月の「愛知を食べる学校給食の日」、11月の「愛知を食べる学校給食週間」に加えて、1月の全国学校給食週間に合わせて「小牧を知る学校給食の日」を位置付けし、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供して、校内放送や給食だよりを通じ、特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。 ・食物アレルギー対応として、できるだけ皆が同じ給食を食べる機会を提供するため9月、12月、1月に特定原材料を除く献立やユニバーサル給食を実施して、食物アレルギーに対する意識付けを行いました。 ・学校における食物アレルギー対応に関する市教育委員会としての基本方針を定めました。また、食物アレルギー対応委員会を設置して医療機関や消防機関など専門的知見を有する委員のご意見をお聞きする中で、アレルギー対策を推進しました。	
課 題	・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。 ・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。 ・食物アレルギーのある児童生徒が増えており、その現状を踏まえた食育、給食指導が必要となっています。 ・物価高騰においても栄養量の確保が必要となります。	
今後の取組の方向性	・栄養教諭や栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員の食に関する指導や給食委員の啓発に活用できる媒体やポスターなどの作成、配布に努めます。 ・栄養教諭や栄養職員による指導機会の確保のため、ICTの活用を含む効率的な実施方法を検討します。	

点検評価シート（令和7年度実績）

	・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期や供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。 ・定期的に物価変動に伴う適正な給食費の検討を行います。
評価委員 の意見等	・栄養教諭らによる巡回での食育は意義がある活動です。各学校のカリキュラム・マネジメントに位置付け、保健・体育の授業や、保健室活動、給食指導などに関連付け、健やかな成長を図る食育の充実を期待しています。 ・栄養教諭による食育指導は、担任の指導とは一味違う専門的な見地からのもので、給食センターとの兼務で忙しいとは思いますが、児童生徒への指導の機会を大切にしていきたいと思えます。 ・巡回指導や地産地消、ユニバーサル給食など多面的な食育を評価します。食物アレルギー対応の基本方針策定も意義深く、ICT活用による指導機会の確保と物価高騰下での栄養量確保の両立が課題です。

基本目標 3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

- ☞ 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。
- ☞ 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	児童生徒に対する学習支援の実施（施策 1 1）	担当課
		こども政策課
内 容	「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員 O B などの協力を得て、学習支援活動に取り組めます。	
達 成 状 況	・令和 7 年度より応時中学校の生徒を対象に、新たに南部地区へ開設しました。5 教室合わせて 107 人の生徒の参加がありました。 ・令和 7 年度より、入塾を希望する生徒の応募を随時受け付けました。 ・令和 7 年度は夏の追加募集期間に中学生を対象とした見学会を実施し、12 人の参加があり追加入塾しました。また、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できるよう、春に小学 6 年生を対象とした見学会を実施し、9 人の参加がありました。 ・参加している生徒は、ひとり親家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習の理解度に差もあるため、個々の生徒に合わせた個別の学習支援を行いました。 ・参加する生徒や保護者を対象としたアンケート結果から満足度は高く、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子が伺えました。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。	
	開催日等	毎週水曜日、木曜日 午後 6 時 30 分から午後 8 時 水曜日：年間 45 回、木曜日：年間 48 回開催
	参加料	無料
	対象教科	数学、英語を中心に 5 教科
	学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。
	学習体制	各教室、学習支援員 2～3 人、学習サポーター 2～3 人の体制で、講師 1 人につき生徒 2～3 人を担当。講師は、登録制によるローテーションを組んでいる。

点検評価シート（令和7年度実績）

	【東部地区】 場 所：東部市民センター学習室・視聴覚室 参加生徒：32 人（篠岡中 7 人・桃陵中 14 人・光ヶ丘中 11 人） 登録講師：16 人（学習支援員 8 人・学習サポーター 8 人） 【北里地区】 場 所：北里市民センター集会室 参加生徒：18 人（北里中 12 人・小牧西中 6 人） 登録講師：8 人（学習支援員 6 人・学習サポーター 2 人） 【味岡地区】 場 所：味岡市民センター視聴覚室 参加生徒：23 人（小牧中 1 人、味岡中 9 人・岩崎中 13 人） 登録講師：10 人（学習支援員 8 人・学習サポーター 2 人） 【小牧地区】 場 所：中部公民館会議室 1・2 参加生徒：19 人（小牧中 16 人・応時中 2 人、小牧西 1 人） 登録講師：12 人（学習支援員 5 人・学習サポーター 7 人） 【南部地区】 場 所：ふらっとみなみ小会議室 参加生徒：15 人（応時中 15 人） 登録講師：8 人（学習支援員 5 人・学習サポーター 3 人） 内水曜日、木曜日兼任者：学習支援員 1 人
課 題	・ひとり親家庭をはじめ、不登校傾向の生徒など、様々な事情を抱えている生徒がおり、生徒との関係性をつくりながら継続して参加してもらえるような個々に応じた対応や働きかけが必要です。 ・参加生徒が増加傾向にあり、また、個々の学習の定着状況が異なり、個別配慮が必要な生徒もいるため、支援人材の安定的な確保が必要です。特に、参加生徒に近い年代の大学生等の参加があるといいです。
今後の取組の方向性	・生徒への指導方法や運営など情報共有を図るため、定期的に塾長会を開催します。 ・教員を目指す大学生などの学習サポーターを確保するため、大学へのチラシ配布、広報での周知等により、積極的に声かけを行います。
評価委員の意見等	・駒来塾の会場を増やし、入塾時期を柔軟にしたことで、こどもの学びの場として定着してきています。今後も、生徒のニーズに合

点検評価シート（令和7年度実績）

	わせた運営をお願いします。 • 徐々に拡充されて、学びたいという意欲や機会が増えることはよい方向であると思います。学習サポーターはできるだけ年齢の近い方がよいと思うので、引き続き、大学生の確保を目指していただきたいと思います。 • 南部地区への新設や見学会など参加しやすい工夫により、多くの生徒の参加を得ている点は評価できます。継続参加につながる関係づくりと、大学生サポーターの確保に向けた働きかけをお願いします。
--	--

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こども夢・チャレンジ事業の展開（施策 1 3）	担当課																								
		こども政策課																								
内 容	こどもの将来の夢を育むきっかけとして様々な事業を展開します。 ①学習支援事業「駒来塾」 ②市内産業見学会開催事業 ③夢にチャレンジ助成金支給事業 ④大学生等海外留学奨学金支給事業 ⑤こども夢サポーター制度 ⑥高校生等社会参画事業																									
達 成 状 況	・「こども夢・チャレンジNo.1 都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。 ①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策 1 1）を参照 ②市内産業見学会開催事業 市制 70 周年記念事業として、小学 5・6 年生及び中学生を対象に、地元企業などへの愛着を育む機会として、市内企業の見学を行いました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>参加者</th><th>見学・体験先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11 月 3 日 (月・祝)</td><td>19 人</td><td>日本特殊陶業株式会社 工場見学</td></tr> </tbody> </table> また、市内在住又は在学の中学生・高校生を対象に、職業体験会を行いました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>参加者</th><th>見学・体験先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8 月 5 日 (火)</td><td>8 人</td><td>第二保育園 (2 人) 陶保育園 (3 人) 北里保育園 (3 人)</td></tr> <tr> <td>8 月 6 日 (水)</td><td>6 人</td><td>大山保育園 (3 人) 岩崎保育園 (3 人)</td></tr> <tr> <td>8 月 7 日 (木)</td><td>18 人</td><td>小牧市民病院 救命措置など</td></tr> <tr> <td>8 月 19 日 (火)</td><td>1 人</td><td>陶保育園 (1 人)</td></tr> <tr> <td>8 月 20 日 (水)</td><td>3 人</td><td>第二保育園 (1 人) 北里保育園 (1 人) 大山保育園 (1 人)</td></tr> </tbody> </table> ③夢にチャレンジ助成金支給事業 25 歳以下の中学校、高校、大学などの在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限 1 件 30 万円）を支給するものです。		開催日	参加者	見学・体験先	11 月 3 日 (月・祝)	19 人	日本特殊陶業株式会社 工場見学	開催日	参加者	見学・体験先	8 月 5 日 (火)	8 人	第二保育園 (2 人) 陶保育園 (3 人) 北里保育園 (3 人)	8 月 6 日 (水)	6 人	大山保育園 (3 人) 岩崎保育園 (3 人)	8 月 7 日 (木)	18 人	小牧市民病院 救命措置など	8 月 19 日 (火)	1 人	陶保育園 (1 人)	8 月 20 日 (水)	3 人	第二保育園 (1 人) 北里保育園 (1 人) 大山保育園 (1 人)
開催日	参加者	見学・体験先																								
11 月 3 日 (月・祝)	19 人	日本特殊陶業株式会社 工場見学																								
開催日	参加者	見学・体験先																								
8 月 5 日 (火)	8 人	第二保育園 (2 人) 陶保育園 (3 人) 北里保育園 (3 人)																								
8 月 6 日 (水)	6 人	大山保育園 (3 人) 岩崎保育園 (3 人)																								
8 月 7 日 (木)	18 人	小牧市民病院 救命措置など																								
8 月 19 日 (火)	1 人	陶保育園 (1 人)																								
8 月 20 日 (水)	3 人	第二保育園 (1 人) 北里保育園 (1 人) 大山保育園 (1 人)																								

点検評価シート（令和 7 年度実績）

対象者は市内在住、在学の満 12 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、グループ単位での応募も可能です。

令和 7 年度より小学 4 年生から中学 3 年生を対象に探究的な学びである「夢☆チャレンジ」科が始まるなど中学生が探究学習や主体的に社会に参画する機会が増えていることから、令和 7 年 12 月より対象者を中学生まで拡大しました。また、活動期間は単年度もしくは、翌年度末まで可能です。

令和 7 年度は 3 件の申請があり、3 件を決定しました。なお、2 件については令和 7 年度と 8 年度にまたがる活動と、令和 8 年度の活動のため、支給は令和 8 年度となります。

申請	決定	内容
3 件	3 件	・「フィリピンマニラへの挑戦～教育者を育み、こどもの未来を創る～」 ・「演じる人、支える人、観る人全員が『人生に全力で立ち向かう』ミュージカル」 ・「夢の国プロジェクト」

④大学生等海外留学奨学金支給事業

海外の大学に、3 ヶ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の国や地域に応じて、12 回を上限に、月額 4 万～5 万円を支給しました。

対象者は市内在住の満 15 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、所得基準については、日本学生支援機構の第二種奨学金支給基準を準用しています。

令和 7 年度は 2 件の申請があり、1 件を決定しました。令和 7 年度に留学し、奨学金を支給したのは 6 件（860,236 円）でした。

	人数	留学先
大学生	6 人	ポルトガル、ドイツ、アメリカ、フランス、カナダ、フィンランド

⑤こども夢サポーター制度

市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢サポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈するとともに、市のホームページで各登録者の取組を紹介しました。

【登録数】（各年度末現在）

年度	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R 元	H30	H29	H28	合計
団体数	1	2	2	1	0	3	4	7	31	26	77

点検評価シート（令和7年度実績）

	⑥高校生等社会参画事業 ・令和7年度から新たに実施したもので、自分の身近な課題や関心事からテーマを決め、社会へ出て自らの足でリサーチしたり、地域や企業などの協力を得ながら課題解決に向け活動しました。 ・15人の高校生が参加し、こども未来館を拠点に5月から12月まで全10回のプログラムで、8月に中間発表、最後の回で最終発表を行いました。 ・活動の中では大学生やキャリアコンサルタントなど多くの大人に協力いただき、こどもたちが自分の意見を表現できるようサポートしたり、地域や企業などつなぐコーディネーターとしての役割を担いました。
課 題	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策11）参照 ③夢にチャレンジ助成金支給事業 ・中学生まで対象を拡大したことで、制度の内容を中学生にわかりやすく伝える必要があります。 ・中学生がプレゼンの資料作成や発表方法、実際の活動をするについてサポートする体制を整えていく必要があります。 ④大学生等海外留学奨学金支給事業 ・物価高騰や円安の影響を考慮する必要があります。 ・応募者が少ないため、応募者の増加を図る必要があります。 ⑤こども夢サポーター制度 ・一定数の登録があり、新たな登録申請が少なくなっています。事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を高める必要があります。 ⑥高校生等社会参画事業 ・指定の活動日以外にも一人ひとりをサポートする時間の確保が必要であり、スタッフに対して適切な受け入れ人数の検討が必要です。
今後の取組の方向性	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策11）参照 ②市内産業見学会開催事業 ・事業の見直しの結果、こども夢・チャレンジ事業として実施している市内産業見学会は令和8年度より廃止し、職業体験会のみ実施します。 ③夢にチャレンジ助成金支給事業 ・中学生にもわかりやすく制度を周知します。 ・中学生の活動を高校生等がサポートする体制を整えます。 ・高校生等が身近な課題や関心事について自らプロジェクトを立ち

点検評価シート（令和7年度実績）

	上げ、課題解決を目指した取組を行う「高校生等社会参画事業」との連携を検討します。 ④大学生等海外留学奨学金支給事業 ・引き続き活用内容や制度について広報やホームページ、SNSで周知するとともに、対象世代が集まる場所での公開による、活動の実績報告会を開催します。 ・令和8年度より、物価高騰に対応して月額支給金額を増額し、より効果的な制度となるよう検討を進めます。 ⑤こども夢サポーター制度 ・登録のメリットを明確にしていくとともに、こども夢サポーター制度についてあらためて整理し、効果的な制度として活用に向け検討します。 ⑥高校生等社会参画事業 ・引き続き高校生が自ら考え、意見表明や社会参画を通して地域や社会に主体的に関わる意識を育めるよう事業を継続します。 ・一年間の活動で終わるのではなく、この活動をスタートとして、さらなる夢にチャレンジできるよう「夢にチャレンジ助成金」制度の活用へつなげます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・各事業が充実してきていることがわかります。 ・「②市内産業見学会開催事業」と「⑤こども夢サポーター制度」については、中学生の職場体験と同様の趣旨であり、ねらいが重複している印象を持ちます。職場体験を支援していただく企業・団体に対して、サポート企業・団体として認定し、その取組を紹介するなどして、企業・団体を支援する形がよいのではと思います。 ・「③夢にチャレンジ助成金支給事業」と「④大学生等海外留学奨学金支給事業」の取組はよいと思いますが、「③夢にチャレンジ助成金支給事業」の中学生への助成金支給は、仮に申し出があっても経験のない中学生が有効に活用できるか疑問に思います。 ・こどもの夢を多角的に応援する取組を評価します。助成金の対象拡大も時宜に合っており、SNS等を活用した各事業の周知・参加者拡大と、事業間の連携強化が望まれます。 ・「⑤高校生等社会参画事業」は、若者の主権者意識高揚のための絶好の企画であると思います。若者の柔軟な頭脳や発想力を生かした街づくりなどのアイデアや改善プランは、その考え方が中学生にも近いものがあるとも思います。そのため、関係高等学校や県教委(高校教育課)との連絡調整を図ると共に、共通する「探求学習」や地域での諸活動などを通して、こども政策課や教育委員会などが積極的に中高連携の橋渡しに貢献されることを願っています。

点検評価シート（令和7年度実績）

	・授業などで夢について考える時間があることは素晴らしいと思いますが、こども達が夢を思い描く事は楽しいと思えるような授業があればより良いと思います。
--	---

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校施設の改修（施策 1 4）	担当課
		教育総務課
内 容	老朽化・狭あい化が進んでいる米野小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。令和 6 年度に実施した実施設計に基づき、改築工事に着手します。 また、小中学校体育館への空調機の設置及び小学校（2 校）、中学校（1 校）のトイレの洋式化改修工事の実施など、学校施設の計画的な改修に取り組みます。	
達 成 状 況	【米野小学校の改築】 ・改築工事に着手するため、入札公告を行いましたが、参加申込がなく入札不調になりました。 ・令和 8 年度に再度入札公告を行うため、入札不調の理由について複数事業者に聞き取りをし、4 週 8 休等を取り入れた設計の変更を行い、工事スケジュールを見直すとともに、3 月議会で予算計上を行いました。 【小中学校体育館への空調機設置】 ・児童生徒の熱中症対策として、改築工事を予定している米野小学校を除く、すべての小中学校の体育館へ空調機を設置し、児童生徒が夏季でも快適で安全な環境の中で、体育の授業や部活動に取り組める教育環境を整備しました。 【トイレの洋式化】 ・小学校 2 校、中学校 1 校のトイレ改修工事を実施し、トイレを和式から洋式に改修しました。 ・学校トイレの洋式化は、今後の学校再編等を考慮し、必要な箇所については、おおむね完了しました。	
課 題	・令和 8 年度から令和 11 年度にわたり予定している米野小学校の改築工事期間中は、教育環境の確保、児童の安全確保をするとともに、周辺住民への配慮した工事計画となるよう努める必要があります。 ・学校施設全体が老朽化しているため、児童生徒が安全・安心で快適に学校生活を過ごすことができるよう、施設の整備を実施する必要があります。	
今後の取組の方向性	・米野小学校改築工事は、令和 8 年 8 月頃に改築工事に着手し、令和 10 年 9 月頃に校舎・体育館供用開始となります。その後、既存校舎・体育館の解体及び外構工事に着手し、令和 11 年 9 月頃に全体供用開始になる予定です。 ・老朽化した学校施設の状況を把握し、緊急度の高い箇所から計画的に改修を進めていきます。	

点検評価シート（令和7年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・居心地のよい学校づくりに向けて、計画的な施設改修を進めてください。 ・老朽化した校舎とすでに改築を行った学校とは雲泥の差があります。学習環境の改善は、どんな教育改革より大きいと思います。大きな予算が必要ですが未来への投資であることから、できるだけ早く他校の改修も進めていただきたいと思います。 ・体育館への空調設置やトイレ洋式化など、安全・快適な環境整備が着実に進んでいます。米野小学校改築は設計・工程を見直し再公告へ進めた対応が適切で、工事期間中の安全確保と周辺への配慮をお願いします。 ・体育館への空調機の設置が完了したため、その活用が期待されます。また、児童生徒の学校教育諸活動での利用に留まることなく、地域での諸活動やスポーツ協会のジュニア育成活動などにも積極的に利用できるような予算措置を含めた体制づくりに期待しています。 ・米野小学校の改築工事により、米野小学校のグラウンドをホームとして活動しているクラブの練習場所の確保が困難となっています。代替場所が遠くなることや、有料施設での練習となると保護者やクラブの負担が大きいのと考えます。市の事業による改築のため、補助金の交付や近隣校（応時中学校等）などが使えるようにするなど組織的な支援が必要だと思います。 ・全校で熱中症対策をより強化して頂きたいです。気温が上がってきている5月下旬頃から各教室の空調の点検を学校ですていただけると安心です。 ・校舎の改築工事は、体育の行事・授業・部活動などにおいて、不便に感じることも多いため、学校の運営が円滑に進むよう、市教育委員会のバックアップが必要だと思います。
----------------------------	--

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	I C T機器の整備・充実（施策 1 4）	担当課	
		学校教育課	
内 容	一部中学校の教員及び生徒用タブレット、全小学校の児童用タブレットを更新します。		
達 成 状 況	・校務支援用コンピュータとして、小中学校の教職員用のノート P C を更新しました。 ・全小学校及び 6 中学校（小牧中・篠岡中・光ヶ丘中を除く）の児童生徒用タブレット端末及び 6 中学校（小牧中・篠岡中・光ヶ丘中を除く）の教職員用タブレットを更新しました。 ・各校のインターネット回線の通信速度を 1Gbps から 10Gbps に増速しました。 ・小学校のドリル教材を「e ライブラリ」から「ドリルパーク」に変更しました。（中学校は「e ライブラリ」を継続して利用） ・児童生徒用タブレット更新を県の共同調達で行うため、補助金申請に必要な各種計画の見直しを行いました。		
	【令和 7 年度の整備機器】		
		小学校	中学校
	教職員用ノート P C	25 台	22 台
	生徒用タブレット	7, 519 台	2, 982 台
	教職員用タブレット	79 台	254 台
	【端末の配備台数（令和 7 年度末）】（次の表に続く）		
	区分	児童生徒 1 人 1 台 GIGAスクール構想分 (iPad)	校務統合系 (図書室含む)
	小学校	7,519 台	708 台
	内 R7 年度更新	7,519 台	25 台
	中学校	4,147 台	442 台
	内 R7 年度更新	2,982 台	22 台
	合計	11, 666 台	1, 150 台

点検評価シート（令和7年度実績）

	（前の表の続き）		
	区分	授業用	計
	小学校	624 台	8,851 台
	内 R7 年度更新	79 台	(7,623 台)
	中学校	377 台	4,966 台
	内 R7 年度更新	254 台	(3,258 台)
	合計	1,001 台	13,817 台
課 題	・将来の校務情報のクラウドサービス利用を想定し、教育ネットワークの在り方について検討する必要があります。 ・教員の I C T の習熟度に差があるため、I C T 機器の活用が十分に進まないことがあります。		
今後の取組の方向性	・令和9年9月の校務支援システム更新に向けて、校務支援システムのクラウド化も含めて、アクセス認証方法及びクラウドへのデータ保存について調査研究します。 ・教員の I C T 活用力向上のため、I C T 支援員の活用や使用頻度が高い機器の操作研修会を開催します。		
評価委員の意見等	・魅力ある授業づくりと、教師の働き方改革の視点から、I C T の充実を今後も続けてください。 ・I C T 機器については、全く使用していなくても更新に多額の費用が必要であり、これまで長年に渡り、使用頻度が非常に少ないものについても「あった方が便利」と多額の予算を使ってきました。ドリル的なものは最小限にし、真に学びの向上や探究活動に必要な機器やソフトに厳選して有効活用を図っていただきたいと思います。 ・タブレット端末の更新や通信速度の増速など、学習基盤の整備は評価できます。教員の習熟度の差を踏まえ、I C T 支援員の活用や操作研修による活用力の底上げと、校務支援システムのクラウド化の調査研究が望まれます。		

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校再編推進事業（施策 1 4）	担当課 教育総務課	
内 容	「小牧市新たな学校づくり推進計画（令和 6 年 9 月策定）」に基づき、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化の課題が特に大きい、巾下地区・篠岡地区・北里地区の 3 地区において、地区別の学校再編計画の策定を進めます。		
達 成 状 況	・「篠岡地区学校再編計画（以下「計画」という。）」を令和 8 年 2 月に策定し、公表しました。 ・計画を策定する上で、児童生徒数の減少が著しい篠岡地区において「篠岡地区の学校を考える会（以下「考える会」という。）」を立ち上げ、5 回会議を開催する中で、学校再編における課題や再編の進め方、スクールバス運行などに対して意見をいただき検討を進めました。		
	会議名	開催日	報告・議題
	第 1 回 考える会	5 月 10 日 (土)	(1)篠岡地区における学校教育を取り巻く課題について
	第 2 回 考える会	5 月 30 日 (金)	(1)第 1 回会議の振り返り (2)篠岡地区学校再編計画（案）について
	第 3 回 考える会	6 月 27 日 (金)	(1)第 2 回会議の振り返り (2)学校再編に伴う通学区域・スクールバスについて (3)今後の進め方について
	第 4 回 考える会	10 月 11 日 (土)	(1)第 3 回会議の振り返り、保護者等との意見交換会、住民説明会等の結果報告 (2)篠岡地区学校再編計画（案）について
	第 5 回 考える会	2 月 7 日 (土)	(1)篠岡地区学校再編計画（案）について
	・また、学校再編は保護者や地域の方の理解が不可欠であることから、考える会と並行して保護者等との意見交換会を 3 回、住民説明会を 1 回開催し、学校再編に関するご意見等をいただきました。 ・併せて、城山三丁目と四丁目は再編後の学区の境目にあることから、保護者に対して 2 回説明会を開催し、アンケートを行った上で通学区域の検討を進めました。 ・総合教育会議において、計画案について市長と教育委員会で意見交換を行いました。		
	会議名	開催日	議題
	令和 7 年度小牧市総合教育会議	11 月 4 日（火）	篠岡地区学校再編計画（案）について

点検評価シート（令和7年度実績）

	・学校再編の検討状況について、ホームページや広報こまきのほか、篠岡地区区長会、地域協議会代表者会議、保護者連絡用アプリを使用しての市内小中学校保護者への一斉配信や未就学児保護者への通知など、機会を捉えて積極的に情報発信を行いました。 ・11月10日から12月9日にかけて、計画案に対する意見募集（パブリックコメント）を実施し、55人の方から計142件のご意見をいただきました。また、実施結果を市の考え方とともに2月2日から公表しました。 ・2月16日の定例教育委員会で可決され、計画を策定しました。 ・巾下地区、北里地区については、それぞれの地区区長会において地区ごとの課題や今後の進め方について次年度を見据え、情報提供を行いました。
課 題	・篠岡地区では、計画に基づき、市教育委員会、学校、保護者や地域等が連携・協力をした形で令和9年度第1期の学校再編に向けて準備を進める必要があります。 ・また、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化の課題が特に大きい巾下地区、北里地区においても学校再編の協議を早期に進める必要があります。
今後の取組の方向性	・篠岡地区においては、学校再編の説明会を5地区別に実施する中で保護者に引き続き理解を得られるように努めます。また、スクールバス運行開始に向け、体験乗車会やプレ登下校などを実施することで保護者の登校に対する不安解消に努めます。併せて校章の作成や学校間交流事業を行う中で、児童生徒の新しい学校への期待感を醸成します。 ・巾下地区・北里地区の2地区において、それぞれの地区に「学校を考える会」を立ち上げ、地区別の学校再編計画の策定を進めます。
評価委員の意見等	・地域と行政の対話を重視してください。特に、こどもたちの意見が表明できる機会を大切にしてください。 ・篠岡地区においては学校再編計画が策定され、学校再編の見通しが立ったことは何よりのことだと思います。昨年の東部5小学校区の出生数が70余名であり、令和13年の新1年生が70余名であることは、ほぼ確定値であることから、早急に第2期再編を準備する必要があると考えます。同時に、令和9年度以降空き校舎となる、篠岡小、陶小、大城小、篠岡中の4校については、これまで実現できなかった文化施設（音楽練習用施設）、教育センター、福祉関係などの有効活用に向けた計画づくりを進めていただきたいと思います。

点検評価シート（令和7年度実績）

	・「考える会」や住民説明会、パブリックコメントを丁寧に重ねた合意形成を高く評価します。スクールバス体験乗車等で児童生徒の不安解消に努める方針を支持し、巾下・北里地区でも早期の協議開始が望まれます。 ・篠岡地区の学校再編は具体的な段階に入っています。関係地区住民の理解と納得に基づき、それぞれの課題を解決して来年度の開校に向けたスケジュールを完結されることに期待しています。
--	--

基本目標4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

- ☞ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。
- ☞ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	教育・保育の質の向上（施策16）	担当課
		幼児教育・保育課
内 容	第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達過程に配慮した心の教育の充実に努めます。	
達 成 状 況	・2回の会議と第一幼稚園の公開保育におけるこどもの姿から、幼児期は非認知能力を育てる大切な時期であることを再確認しました。こどもの育ちをつなぐために「小学校」が果たせる役割が何か、そのために幼稚園、保育園、認定こども園ではどのように過ごしてきたのかなど、こどもの経過を知ることが小学校との連携の具体化につながるという共通認識を得ました。 ・第2回幼年期教育研修会では、幼稚園、保育園の保育士と小学校、中学校の教員が集まり地域ごとに分かれ、次期学習指導要領と指針・要領の下での小牧のこどもの「15歳までに育ってほしい姿」を考え、幼児教育から学校教育までの学びの連続性と連携の具体的な方法を検討しました。また、『「好き」を育み「得意」を伸ばす』が明示され、社会性の中で「好き」「得意」ということ、「興味」「関心」を大事にしていくことの重要性を改めて学ぶことができました。 ・愛知県幼児教育センターのアドバイザー支援を受けながら、米野小学校区において幼稚園、保育園、小学校合同で「幼保小つながる会議」を立ち上げ、「架け橋期カリキュラム」作成に向けて段階的に取組を進めてきました。	
	会議等の内容	参加人数
	幼年期教育連携推進会議 (2回開催:6月、1月) ○意見交換 ○第一幼稚園の公開保育の振り返り ○今年度の活動のまとめと次年度への提言	6月 委員11 その他8 計19人 1月 委員8 その他6 計14人
	(次の表に続く)	

点検評価シート（令和7年度実績）

	（前の表の続き）	
	第1回幼年期教育研修会(8月) 『幼児教育と学校教育の連携』	幼稚園 9 保育園 21 認定こども園 2 小学校 45 中学校 14 こども未来館 1 その他 6 計 98 人
	第一幼稚園公開保育(10月) 『主体的に遊びに取り組む幼児の育成』	幼稚園 8 保育園 19 認定こども園 2 小学校 18 中学校 7 その他 11 計 65 人
	第2回幼年期教育研修会(2月) 『新要領に向けた中央教育審議会論点整理』	幼稚園 10 保育園 25 認定こども園 3 小学校 16 中学校 7 こども未来館 1 その他 9 計 71 人
課 題	・関係機関がお互いの様子、「こどもたちをどのように育てているのか」を共有し理解を深めながら交流していくことが大切であり、こどもたちがどんな活動をして、どんな学びを経験しているか等、情報共有出来る場や実践出来る場を増やしていくことが必要です。そのためには、適切なタイミングで適切な内容の交流、共通の視点が求められます。 ・より多くの幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校がどのようにつながりを広げていくのか、工夫が必要です。	
今後の取組の方向性	・幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校が学び合い、連携することが重要であるため、引き続き講師の招へいや公開保育、交流活動を通して、こどもたちの育ちや学びについての理解を深め、より良い接続を考えていきます。 ・地域の中で幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校がどのようにつながり、こどもの育ちを支え、「好き」を育み「得意」を伸ばしていける環境をどのように作っていくかについて考え、顔の見える交流を深めながら、こどもたちの学びの接続に向けたより良い実践方法を検討していきます。 ・今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、会議や研修への参加を促していきます。また、学校教育課と連携し、各地区に応じた架け橋プログラムの推進やカリキュラム作成を進めていきます。	
評価委員の意見等	・次期学習指導要領にむけて、幼保小中が連携して学び合うことは貴重な機会ですので、今後の充実を期待しています。米野小学校区の「架け橋期カリキュラム」の先進事例を市内に展開することが大切です。 ・長年に渡り公開保育や研修等を通じて連携を深められてきたことは、素晴らしいことであり地域の基盤となっています。校種を越えて理解し合うことで繋がりが生まれ、日頃より連携した指導に繋がっていくものと期待します。	

点検評価シート（令和7年度実績）

	・公開保育や研修会を通じ、幼保小の学びの連続性について共通認識を深めている点を評価します。「架け橋期カリキュラム」作成の取組も意義深く、学校教育課と連携した一層の推進をお願いします。
--	---

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	放課後子ども総合プラン（施策18）	担当課	
		こども政策課	
内 容	放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する小牧市版放課後子ども総合プランを全小学校で実施し、多様な活動プログラムに参加できる機会を提供します。		
達 成 状 況	・市内全小学校（16校）で合同の体験活動を実施しました。		
	学校名	年間実施回数 主な内容	参加人数（延べ） 放課後子ども教室 児童クラブ
	小牧小学校	7回 ゆる文字、観劇、音楽鑑賞	126人 154人
	村中小学校	3回 人形劇、工作、マリオカート	170人 13人
	小牧南小学校	3回 ソリティア作り、忍者ランド、人形劇	46人 126人
	三ツ渕小学校	5回 ペーパー芯工作、忍者ランド、大型トランポリン	89人 36人
	味岡小学校	7回 人形劇、忍者ランド、すまいるまつり、児童館企画	132人 310人
	篠岡小学校	6回 マジックショー、ミニコンサート、和太鼓	126人 175人
	北里小学校	4回 防犯教室、シナプソロジー、児童館企画	103人 47人
	米野小学校	4回 バルーンアート、コンサート、レクリエーション	109人 158人
	(次の表に続く)		

点検評価シート（令和7年度実績）

（前の表の続き）			
一色小学校	6回 レクリエーション、 盆踊り、一色ワンダ ーランド	93 人	195 人
小木小学校	4回 人形劇、リトミッ ク、丸シール	73 人	81 人
小牧原小学校	4回 防災教室、大型トラ ンポリン、認知症サ ポート講座	114 人	116 人
本庄小学校	4回 人形劇、忍者ラン ド、シナプソロジー	195 人	9 人
桃ヶ丘小学校	5回 おはなし会、冬のコ ンサート、リトミッ ク	57 人	94 人
陶小学校	5回 運動遊び、 リトミック、人形劇	119 人	54 人
光ヶ丘小学校	5回 大道芸、レクリエー ション、読み聞かせ	84 人	87 人
大城小学校	2回 トランポリン、 太鼓を体験しよう	36 人	22 人
・情報交換会を開催し、放課後子ども教室と児童クラブ従事者の連携や他校の活動内容や講師の活用等の情報を共有しました。 ・児童の趣味趣向は様々であるため、工作・運動・音楽・劇などと、いろいろな分野の活動を工夫しました。また、児童館と積極的に連携し、創作活動などを行いました。 ・配慮が必要な児童への対応について、放課後子ども教室の指導者と児童クラブ支援員の合同での研修を行いました。 ・夏季の活動において、活動内容・活動場所を工夫し、熱中症対策を講じて無理なく活動しました。			

点検評価シート（令和7年度実績）

課 題	・すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは、現在の従事者や活動場所の確保の状況においては困難ですが、参加を希望する児童ができるだけ多く参加できるよう、活動場所と放課後子ども教室と児童クラブそれぞれの従事者の確保が必要です。 ・学校再編後も総合プランの活動が継続できるよう、今後、関係者や関係部署と連携を図り進める必要があります。
今後の取組の方向性	・事業運営の改善を図りながら、児童クラブと放課後子ども教室との共通プログラムの仕組みづくりを推進し、どの学校も無理なく進められるよう事務局でサポートしていきます。 ・配慮が必要な児童への対応等について、従事者が相談したり、アドバイスを受けられる体制や従事者向けの研修を今後も継続します。 ・児童館との連携を継続して進め、活動に広がりができるようにします。
評価委員の意見等	・従事者の確保が課題であるとのことではありますが、どのこどもも安心できる安全な居場所づくりの取組の充実が求められます。 ・長年に渡る懸案だった放課後子ども総合プランが完全実施できて2年になることから、定着してきたと思います。引き続き、互いに無理のない範囲で進めていただきたいと思います。 ・全16小学校での多彩な体験活動と児童館との連携を評価します。従事者・活動場所の確保が課題となる中、希望する児童が参加できるよう、学校再編後も見据えた体制づくりが望まれます。 ・放課後子ども総合プランを持続可能な事業として位置づけるためには、本市独自の総合プランに位置づけることが必要だと思います。そして、事業の一本化の実現可能な体制づくりのため、放課後児童クラブや放課後子ども教室の運営に関する予算や従事者の状況(手当や負担感の違いなど)、さらには参加する児童が負担する費用などを見直すことが必要だと思います。

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

- ☞ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。
- ☞ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民講座の実施（施策２１）	担当課	
		文化・スポーツ課 市民センター管理課	
内 容	公募により市民が主体となつて行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。		
達 成 状 況	・ 下記の講座を実施しました。 ・ 講座終了後は、サークルを立ち上げていただく等、生涯学習に取り組むきっかけづくりを行いました。 【公民館企画講座】		
	公民館名 (講座数)	回数	延べ 受講者数
	市公民館等 (16 講座)	31 回	854 人
	東部市民センター (5 講座)	8 回	79 人
	味岡市民センター (3 講座)	9 回	135 人
	北里市民センター (4 講座)	4 回	14 人

点検評価シート（令和7年度実績）

【市民企画講座】				
公民館名 (講座数)		回数	内容	延べ 受講者数
市公民館等 (18 講座)		89 回	製本、レジニアクセサリー、フーアーレンジメント、歌おうビートルズ、複音ハーモニカ、フラダンス、リンパケア&バランスボール、世界三大料理、配色、相続、ハングル、小牧おもしろ話、対話型鑑賞ワークショップ、己書、ギター、ベリーダンス、片付け、着付け	1,283 人
東部市民センター (6 講座)		28 回	ウクレレ、リズム体操、製パン、マネー、発酵調味料、断捨離	494 人
味岡市民センター (9 講座)		40 回	英語、大正琴、笑顔トレーニング、アイシングクッキー、着付け、クラフト、美文字トレーニング、ミニトランポリン、そば・うどん打ち	697 人
北里市民センター (6 講座)		28 回	セカンドキャリア・メンタルヘルス、己書、軽運動、リズムダンス、マネーセミナー、クラフトバンド	436 人
◆市民講座年度別実績				
項目		R7 年度	R6 年度	R5 年度
市公民館等	延べ受講者数	2,137 人	1,673 人	2,251 人
	講座数	34 講座	31 講座	33 講座
東部市民センター	延べ受講者数	573 人	516 人	624 人
	講座数	11 講座	12 講座	15 講座
味岡市民センター	延べ受講者数	832 人	834 人	570 人
	講座数	12 講座	12 講座	10 講座
北里市民センター	延べ受講者数	450 人	311 人	410 人
	講座数	10 講座	10 講座	10 講座

点検評価シート（令和7年度実績）

課 題	・受講者の年齢層が 60 代以上に偏りがちであり、また、応募者数が定員を大きく上回る講座と、定員に達していない講座との差が大きくなっています。 ・将来を見据え継続的な学習機会を提供するため、若年層を取り込む講座の選定と情報の発信方法を考える必要があります。
今後の取組の方向性	・開催日時や講座内容、SNSでの広報等を工夫して、幅広い世代の方が受講しやすいよう検討します。 ・広報と同時の全戸配布とホームページ掲載に加え、SNS等を活用し、情報展開の工夫を検討します。
評価委員の意見等	・ホームページ等は見やすいものの、講座の検索性に課題があり、検索機能や情報発信の改善が求められます。 ・多様で魅力ある講座が企画されている点は評価できます。講座がきっかけとなってサークル活動となり、市民による文化活動へと発展している団体がいくつもあります。講座を契機とした活動の継続には、資金や指導者、活動場所の確保といった課題があります。特に、活動場所の確保は非常に重要となります。市民文化を育て応援する姿勢を市と文化財団にはより強く持っていただきたいです。 ・講座が日中開催のため、受講者の多くが 60 代以上であるのはやむを得ないと思います。今後、勤労者など幅広い世代の参加を促進するため、講座の種類や内容の見直し、土日や午後 6 時以降に講座を開催するなどの工夫が必要です。 ・多分野の学習機会の提供と、サークル化など学びの継続への工夫を評価します。受講者が高年齢層に偏る中、開催日時・内容の工夫やSNSの活用により、幅広い世代が受講しやすい講座づくりが求められます。 ・子育て世代等の参加者が何故少ないのかをアンケートを実施するなどして、定期的に把握する必要があると思います。

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	生涯学習を推進する人材育成講座の開催 (施策 2 2)	担当課 文化・スポーツ課
内 容	学びの成果を地域活動などにつなぐため、人材育成のための講座の開催や、地域協議会などと連携し、地域の生涯学習活動のきっかけづくりや活性化に取り組みます。	
達 成 状 況	・こまなびサロンやワクティブこまきと連携し、ボランティア活動、市民活動など多様な主体と協力をして、指導者や、生涯学習にかかわる人材を増やすとともに、団体の立ち上げや推進をする人材育成のための講座を開催しました。 【伝わる！集まる！市民活動広報セミナー～団体のブランドを伝える発信術～】	
	開催日	1 月 25 日（日）
	会場	ワクティブこまき 多目的室
	受講者数	20 人
	【はじめての方向け Canva でチラシを作ってみよう！】	
	開催日	2 月 7 日（土）
	会場	ワクティブこまき 多目的室
	受講者数	9 人
	【世代間や価値観のズレにも悩まない～令和の時代のコミュニケーション～】	
	開催日	2 月 11 日（水）
会場	市公民館 視聴覚室	
受講者数	19 人	
課 題	・講座の受講で終わることなく、学びを地域で生かせるよう、地域活動への第一歩が踏み出しやすい環境を整える必要があります。	
今後の取組 の 方 向 性	・ワクティブこまきと連携して、関連する地域活動やボランティア情報等の情報提供を含め、地域活動の場を広げていく支援を考えていきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・生涯学習の担い手を発掘し、世代交代を図っていく必要があります。 ・生涯学習のリーダーまたはリーダー候補として活躍している方も苦労や悩みはあるはずです。しかし、それぞれに一家言を持った方々の心をつかむには、相応の講師でないと集客は難しいと思います。一方、今後欠かせないのはSNS等を使った情報宣伝活動です。こういった分野への講座は必要と考えます。 ・ワクティブこまき等と連携した実践的な人材育成講座は評価できます。学びを地域活動につなぐ視点は重要であり、講座修了後の活動の場の紹介など、継続的な伴走支援の充実をお願いします。	

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課										
障がい者サービスの実施(施策 2 3)		図書館										
内 容	読書バリアフリー資料及びサービスの充実を図るとともに、障がいのある方も参加できるイベントを開催することで、すべての方の学びを支援します。											
達 成 状 況	1 読書バリアフリー資料及びサービスの充実 ・ 図書館ボランティアにより作成された点訳・音訳資料について、図書館資料として利用できるよう受入登録を行いました。また、対面読書サービスについて、延べ 64 人の利用がありました。 ・ 読書バリアフリーサービスについて、9 人の新規利用登録がありました。 ・ 利用者の拡大を目的として、障がい当事者やその家族に対し、読書バリアフリーサービスの個別説明会を行いました。 (参考) 読書バリアフリーサービス新規利用登録者数 <table><tr><td>令和 3 年度</td><td>2 人</td></tr><tr><td>令和 4 年度</td><td>2 人</td></tr><tr><td>令和 5 年度</td><td>3 人</td></tr><tr><td>令和 6 年度</td><td>0 人</td></tr><tr><td>令和 7 年度</td><td>9 人</td></tr></table> 2 イベント (1) 図書館が主催したイベント ア. みて・ふれて・楽しく学ぶ！図書館バリアフリーデイズ 日時：令和 7 年 10 月 12 日(日)・13 日(月・祝) 場所：中央図書館イベントスペース 参加者数：151 人 実施主体：こまき市民活動ネットワーク イ. お試し！だれでも対面読書サービス 日時：令和 8 年 2 月 4 日(水) 午前 10 時～午後 3 時 場所：中央図書館対面読書室 参加者数：5 人 協力：声のボランティア「かつこう」 ウ. 読書バリアフリーサービス読む人つくる人 日時：令和 8 年 3 月 22 日(日) 午前 10 時～午後 3 時 場所：中央図書館イベントスペース 参加者数：148 人 協力：声のボランティア「かつこう」、点訳グループ「たんぽぽ」		令和 3 年度	2 人	令和 4 年度	2 人	令和 5 年度	3 人	令和 6 年度	0 人	令和 7 年度	9 人
令和 3 年度	2 人											
令和 4 年度	2 人											
令和 5 年度	3 人											
令和 6 年度	0 人											
令和 7 年度	9 人											

点検評価シート（令和7年度実績）

	(2) 市民活動団体等と連携して実施したイベント ア. こまきアール・ブリュット 日時：令和7年11月29日(土)～12月7日(日) 場所：中央図書館イベントスペース 主催及び実施主体：市障がい福祉課・サンフレンド イ. 見える人と見えない人のバブリーライフ 日時：令和8年1月10日(土) 午前10時～午後3時 場所：中央図書館イベントスペース 参加者：約200人 主催及び実施主体：こまき視覚障がい者の会
課 題	・ 障がいのある方の読書人口を増やすためには読書人口全体を広げていくことがその前提として重要なため、引き続き読書の魅力や価値を広く発信していく必要があります。 ・ 障がいのある方にとっては、読書意欲があっても実際に行動に移すことが物理的・心理的障壁により難しい場合があるため、通常より積極的な利用勧奨や支援が必要です。 ・ 読書バリアフリーサービスの提供に欠かせない音訳・点訳ボランティアの高齢化や人材不足、モチベーションの低下への支援が必要です。
今後の取組の方向性	・ 障がい当事者および障がい者支援団体・施設に対して、利用を促す働きかけを行います。 ・ 音訳・点訳ボランティアの安定運営を図るため、会員獲得やスキルアップ、活動のPRなどを支援します。
評価委員の意見等	・ 良い取組ですので、利用者のニーズに応じて取組を進めてください。 ・ 読書バリアフリー資料・サービスの充実とイベントの開催を評価します。とりわけ新規利用登録者数が前年度の0人から9人へ大きく増加した点は、個別説明会など積極的な働きかけの成果です。音訳・点訳ボランティアの高齢化や人材不足はサービスの持続可能性に直結する課題であり、会員獲得やPRへの支援強化が望まれます。 ・ 福祉施設の方々を定期的に招いてより良いものを考えていけたら、なお良いと思います。 ・ 読書が困難な方に対して、読書を楽しめるように工夫された「マルチメディアデイジー」というデジタル録音図書がありますので、「サピエ」という情報サービス機関と連携するなどして、「マルチメディアデイジー」を活用できる機会を検討してください。 ・ 障がいのあるこどもたちへのサービスの充実を図ってください。

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携（施策２４）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	ワクティブこまきと連携して、生涯学習をきっかけに、地域活動などへつながる取組を推進します。	
達 成 状 況	・生涯学習の学びの輪を広げる仲間になってくれる方々を育成する取組を推進しました。	
	項目	内容
	人材育成講座の連携開催	小牧市内で市民活動・生涯学習活動を行っている人、これから行おうとしている人を対象に、活動を活性化したり、スキルアップをはかるための講座を開催 【伝わる！集まる！市民活動広報セミナー～団体のブランドを伝える発信術～（１月２５日）２０人参加】 【はじめての方向け Canva でチラシを作ってみよう！（２月７日）９人参加】 【世代間や価値観のズレにも悩まない～令和の時代のコミュニケーション～（２月１１日）１９人参加】
	こまき団体情報ガイドブックの活用	市内を活動拠点とする生涯学習団体や市民活動団体の総合データベース。ワクティブこまきが運営しているが、団体情報の収集や市民への情報提供を各公民館でも行っている。
	講師情報の共有	生涯学習市民講師データの共有（相互で人材発掘したデータの一元化）
	こまなびフェスティバルへの参加	ワクティブこまきのこまなびフェスティバル参加(企画運営、広報等のPR、舞台設営等)
課 題	・生涯学習支援の拠点であるこまなびサロン、市民活動・交流・協働の拠点であるワクティブこまきのそれぞれの強みを生かし、学びとつながりの循環を推進していくことが求められます。	
今後の取組の方向性	・今後も講師情報の共有も含め広く周知し、活動の裾野を広げていくきっかけづくりを検討していきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・市民活動の拠点としての役割は果たしていますが、会合や印刷が主で、活動支援等困った時に気軽に相談できる場であって欲しいと思います。 ・団体情報・講師情報の共有など、生涯学習と市民活動をつなぐ連携を評価します。「学び」から「つながり・活動」への循環を生	

点検評価シート（令和7年度実績）

	む取組として、引き続き、広く周知し活動の裾野を広げていただきたいと思います。 ・施策22と関連することでもありますが、こまなびサロンと市民交流テラス(ワクティブこまき)の活動拠点を同じフロアーにして（こまなびサロンの移動など）容易に交流できる環境づくりを提案します。市民の自主的な行動を促進するという観点からも、相談窓口を一本化することが必要だと思います。
--	---

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

- ④ 運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。
- ④ 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課			
スポーツ教室の開催（施策２５）		文化・スポーツ課			
内 容	小牧市スポーツ協会や加盟競技団体などと連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。				
達 成 状 況	・スポーツ協会に加盟する競技団体及び小学校区スポーツ振興会などの地域スポーツ団体並びに市やスポーツ協会が様々なスポーツ教室を開催し、市民がスポーツを始め、それぞれのライフスタイルに応じて継続してスポーツに取り組むことができる機会の提供に取り組みました。 ・また、これらのスポーツ団体に対し、助成金等の支給や市内のスポーツ施設及び学校体育施設の優先貸出といった各種支援を実施することで、市内のスポーツ団体の活性化に取り組みました。				
		【スポーツ協会主催】	R7 延べ人数	R6 延べ人数	R5 延べ人数
	1	テニス（前期）	199	168	85
	2	テニス（後期）	177	180	132
	3	卓球（前期）	258	255	248
	4	卓球（後期）	248	257	250
	5	バドミントン（前期）	163	122	169
	6	バドミントン（後期）	170	139	118
	7	ランニング	—	—	11
	8	ミニテニス	54	52	40
	9	ミニトランポリン（前期）	57	19	—
	10	ミニトランポリン（後期）	47	9	—
		【市主催】			
	1	いきいきシルバースポーツ学級	399	435	430
	2	ノルディックウォーク講習会（１）	13	22	18
	3	ノルディックウォーク講習会（２）	10	15	23
		合計	1,795	1,673	1,524
	※ランニング教室は R5 まで実施				
	※ミニトランポリンは R6 からの新規事業				

点検評価シート（令和 7 年度実績）

課 題	・スポーツ協会のスポーツ教室の受講者アンケートにおいて、技術レベル別のクラス分けの要望があり、対応を検討する必要があります。 ・成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は上昇しているが目標値には満たない状況です。また、30 歳代～50 歳代のスポーツ実施率が 50%未満となっているほか、男性に比べて女性のスポーツ実施率が低い状況です。
今後の取組の方向性	・初心者がスポーツを始めるきっかけとなることを目的に開催している教室ですが、参加者の中に経験者が混じることがあります。可能な限り参加者同士のレベルが合うような組み分けをするなど、参加者にとってより効率的で楽しい教室となる様に取り組みます。 ・スポーツ実施率の向上に向け、働き世代や子育て世代、女性をターゲットとした施策を検討してまいります。
評価委員の意見等	・ミニトランポリンは参加者上昇傾向にあります。また、テニス・卓球などは人気があります。今後も市民のニーズにあったスポーツの機会の提供を続けてください。 ・各種スポーツ教室と団体支援により、継続的にスポーツに親しむ機会を提供している点を評価します。スポーツ実施率が目標に達せず、特に 30～50 歳代や女性のスポーツ実施率が低いため、これらの世代を対象とした施策の検討が課題です。 ・スポーツ活動のニーズは様々で多様化しています。担当部局が「市民総スポーツ」を掲げて、その実現に向けて努力するという姿勢が、市民から「可視化」できるとよいと思います。例えば、市民からの希望受付窓口やスポーツ活動相談窓口の開設（ネットや電話）など、市民へ積極的に働きかけることなどです。市民の意見や希望の集約は新規事業開設の参考にもなり得ると思います。

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）		担当課			
こども対象のスポーツ教室の開催（施策２６）		文化・スポーツ課			
内 容	こどもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体などと連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。				
達 成 状 況	・ こどもの体力・運動機能の低下が問題視される中、早い時期から運動に触れ、運動を好きになり、様々な年代のこどもたちと触れ合いながら心身を健全に発育させることを目的にスポーツ教室を開催しました。				
	・ 親子ふれあい体操教室、小牧市スポーツ協会主催のジュニア体操教室などを開催し、こどもたちが楽しくスポーツに親しむ機会を提供しました。				
		【スポーツ協会主催】	R7 延べ人数	R6 延べ人数	R5 延べ人数
	1	あそび親子運動	40	74	58
	2	かけっこ	56	47	19
	3	小学生初心者水泳	233	224	209
	4	ジュニア体操（寺本明日香） （第１回）	45	55	57
	5	ジュニア体操（寺本明日香） （第２回）	51	57	53
	6	ジュニア体操（寺本明日香） （第３回）	82	88	86
	7	ジュニア育成事業	29,403	28,134	28,397
	8	スポーツクリニック（バレーボール、ソフトボール）	408	395	257
		【市主催】			
	1	親子ふれあい体操教室 （Ⅰ期）	236	357	380
	2	親子ふれあい体操教室 （Ⅱ期）	242	199	248
	3	親子ふれあい体操教室 （Ⅲ期）	366	236	—
	4	わいわいキッズ New スポーツフェスタ（小牧市スポーツ推進委員連絡協議会との共催）	121	188	370
		合計	31,283	30,054	30,134
	※ジュニア体操第１回、第２回はこどものみ対象。第３回は親子対象。				
※スポーツクリニックはウルフドッグス名古屋・クインシーズ刈谷（バレーボール）、東海理化チェリーブロッサムズ（ソフトボール）にて実施。					

点検評価シート（令和7年度実績）

課 題	・未就学児を対象とした事業の中で、あそび運動教室・親子ふれあい体操教室は定員割れが生じています。
今後の取組の方向性	・あそび運動教室の周知のため、児童館やこども未来館にチラシを設置するほか、他の未就学児向け教室の参加者に直接PRするなど、参加者の獲得を目指します。 ・令和5年度より0歳児～2歳児の保育料を無償化したことや少子化の影響が考えられますが、親子ふれあい体操教室の定員に満たない回が見受けられます。今後の状況を見ながら、講座の実施回数などを検討してまいります。
評価委員の意見等	・今後もこどもを対象としたスポーツの機会の充実に努めてください。 ・親子ふれあい体操教室やジュニア育成事業など、幅広い機会の提供を評価します。一部教室で定員割れが生じており、児童館等でのPRなど周知方法の工夫による参加者確保と、実施回数の適切な検討が求められます。 ・こどもたちのスポーツ環境は多岐に渡っています。就学前のこどもたちの様々な身体活動もスポーツのスタート地点として積極的に捉えて、生涯スポーツの「ブックスタート」と同様の考え方に基づき「スポーツスタート」として、市民に理解し易いスポーツ環境になることを希望します。具体的には、「保健センター」や「こども政策課」などのこどもたちの活動を一元的に捉えることから始めることだと思います。その調整機関としての文化・スポーツ課に期待しています。

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	地域部活動の検討（施策26）	担当課
		学校教育課 文化・スポーツ課
内 容	令和5年度には2校、令和6年度は令和5年度の2校に3校を加えた5校をモデル校として部活動改革に取り組む中で、地域においてスポーツ・文化活動が実践できる環境の整備に取り組みます。	
達 成 状 況	・学校部活動の地域連携・地域展開を検討するため、モデル校において、休日の地域連携部活動に取り組みました。 <取組状況> バスケットボール、バレーボール、卓球、ソフトテニス、野球、サッカー、ソフトボールの各種目において、大会予定や各校の行事予定を考慮しながら、休日は地域連携部活動として活動する日を設けました。 <令和7年度モデル校における成果> 在籍校にない種目でも希望する生徒の活動の場を保障することができました。（バスケットボール、野球、サッカー） 複数の教員、外部指導者が関わることで、練習の質を高めることができました。 ・令和8年1月28日 令和7年度第1回小中学校部活動検討委員会 モデル校の取組、国の動向を踏まえ、今後の方向性について議論しました。地域クラブ活動に関する認定制度など国の制度をどのように活用していくか、指導者の質の向上のための研修の在り方、希望する子どもたちの活動の保障など、さまざまな意見が出されました。	
課 題	・生徒数の減少等により学校単位の部活動を維持していくことが困難な状況にあります。 ・地域連携をどのように進めるか、枠組みを検討する必要があります。 ・地域における指導者の量を確保するとともに、指導者の質を高めていく必要があります。 ・活動場所、用具の確保、責任の所在、受益者負担（保険料や指導員の謝礼等）などについて、検討をする必要があります。	
今後の取組の方向性	・国、県の動向及び近隣市町村の状況を把握するとともに、小牧市として部活動の地域連携・地域移行の方向性を示します。 ・これまでの取組を基に、令和8年度は休日の地域連携部活動を継続していきます。令和9年度からは、スポーツ・文化活動を地域における活動とすることを目指し、枠組みを構築していきます。	
評価委員の意見等	・休日の部活動の担い手を増やしていくことが課題です。学校の働き方改革とともに、地域の企業の理解も必要と思われます。	

	・国の方針として地域連携・地域展開が示されていますが、容易ではないだけに目標年が後ろ送りにされました。指導者、予算、活動場所の確保が必須ですが、責任の所在を明確にすることも重要です。スポーツ以上に難しいのは文化活動です。とりわけ、吹奏楽は活動場所の確保が難しく、以前発足させたジュニア吹奏楽団も解散に追い込まれました。しかし、東部地区の学校再編により空き校舎が生まれ、今なら活動場所や楽器の目途が立つだけに、発足に向け絶好のチャンスであると考えます。このチャンスを逃さず、市当局の全力支援を期待します。 ・モデル校での休日の地域連携部活動により、活動機会の保障や練習の質の向上といった成果が得られています。指導者の量・質の確保等の課題を踏まえ、令和9年度からの地域展開に向けた枠組み構築を着実に進めていただきたいと思います。 ・教育課程外の学校教育活動としてスタートした部活動（特に運動部活動）は、様々な理由によってその位置づけ方が混迷しています。その改善策の原点は、「学校視点から地域視点へ」とする考え方の切り替えだと思っており、現状ではそこが割り切れていないと思います。当面は、学校主導の部活動の状態が継続するように思いますが、学習塾産業と同様に、受益者の負担により各種のスポーツ指導が一般的な職業として成立するような社会情勢になれば解決する問題だと思っています。その場合の利用スポーツ施設は学校体育施設の有料貸与が中心だと思います。 ・部活動の時間がもう少しあってもよいと考えます。部活動の時間以上にやりたいと思っているこどもはクラブチームなどへ加入せざるを得ない状況であり、クラブチームなどで試合に出場すると、部活動の試合に出場できなくなる場合もあるという課題があります。また、部活動における教員の働き方や、種目経験のない教員が部活動を担当する場合の課題に対しては、専門性を持った外部コーチ等の導入も視野に入れても良いのではないかと思います。こどもは3年間しか部活動をすることが出来ない（実質2年弱）ため、熱心な顧問の中学校は練習時間が確保され、上達し強くなるということは、学校を選べないこどもにとって、公平ではないように感じます。 ・愛知県教育委員会の部活動の地域展開等についてのガイドラインでは、具体的な指針が示され、また、県ホームページでは、全ての市町村の進捗状況を見ることができます。愛知県の方針も踏まえ、小牧市においても、地域展開を進めていく必要があると思います。
--	---

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	スポーツ施設の環境整備（施策 28）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	利用者が市内のスポーツ施設を良好かつ安全に利用できるよう、スポーツ施設の適切な維持改善、計画的な改修を行います。	
達 成 状 況	・工事が順調に進むよう、施工業者及び関係課と連携を取りながら、工事の監理・監督を行いました。 ・アジア大会に向けて総合体育館のトイレ改修、音響設備、照明環境制御システム改修工事、園路の改修などを行いました。 ○総合体育館 ・トイレ改修工事 ・音響設備等更新工事 ・園路改修工事 ・屋外スピーカー取替修繕 ・管理棟空調機更新工事 ・交流サロン外空調機更新工事 ・非常用発電装置修繕 ○総合運動場 ・野球場事務所空調設備更新工事 ・野球場クッションラバー修繕 ○南スポーツセンター ・屋外トイレ改修工事 ・プール濾過装置修繕	
課 題	・施設が全体的に老朽化しており、施設運営においては故障する前の予防整備が重要です。	
今後の取組 の 方 向 性	・利用者の方が安心して利用できるよう、運営する小牧市スポーツ協会や市の関係部署と協議しながら適切な維持管理に努めます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・アジア競技大会を見据えた計画的な改修・更新を評価します。施設の老朽化が進む中、予防的な整備の重要性は指摘のとおりであり、関係部署と協議しながら安心・安全に利用できる維持管理に努めていただきたいと思います。 ・アジア競技大会を契機に、市民が健康やスポーツにより関心を示して、本人の健康づくりなどの活動につながることを期待しています。	

基本目標7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

- ④ 文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。
- ④ 市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	身近で良質な鑑賞機会の充実（施策29）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	こまき市民文化財団と連携し、バリアフリーコンサートなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。	
達 成 状 況	・財団職員の専門性を活かしながら、市民により良質な文化芸術の鑑賞機会を提供しました。	
	【主な公演事業】	
	内 容	来場者数
	「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」バリアフリー演劇	306 人
	こまぶんフェスタ 2025	3,125 人
	小牧市制 70 周年記念 桂宮治親子寄席・独演会	572 人
	吹奏楽フェスティバル 2025	1,500 人
	キーウ・クラシック・バレエ 白鳥の湖 全2幕	915 人
	KAORI PARADISE 2025	834 人
	尾崎 裕哉 Concert 2025	522 人
	東京楽竹団コンサート ～竹楽器で奏でる癒しのハーモニー～	55 人
	【主な展覧会】	
	内 容	来場者数
	仲宗根 知子展 COSMOLOGY OF THE EARTH -天地の紋	973 人

点検評価シート（令和7年度実績）

	【サンデーコンサート（4回）・モーニングコンサート（1回）】 <table border="1"> <tr> <td>会場</td><td>北里市民センター、東部市民センター、味岡市民センター、市民会館、まなび創造館</td></tr> <tr> <td>来場者数</td><td>延べ943人（R6 延べ1,750人）</td></tr> </table>	会場	北里市民センター、東部市民センター、味岡市民センター、市民会館、まなび創造館	来場者数	延べ943人（R6 延べ1,750人）
会場	北里市民センター、東部市民センター、味岡市民センター、市民会館、まなび創造館				
来場者数	延べ943人（R6 延べ1,750人）				
課 題	・ 広く情報発信を行い、幅広い層に文化事業への関心を喚起し、来場者数の増加を図ることが求められます。				
今後の取組の方向性	・ 幅広い世代の関心を引く事業を企画するとともに、より多くの方に知っていただけるよう、周知方法を工夫していく必要があります。				
評価委員の意見等	・ 財団が発足して以降、工夫のある演目が増えたと思います。また、中部フィルハーモニー交響楽団も充実した聴き応えのあるプログラムが生まれ、本市は十分に恵まれた鑑賞機会が提供されていると思います。引き続き、質の高い魅力ある演目の提供に努力していただきたいと思います。 ・ 財団の専門性を生かした多彩で良質な鑑賞機会の提供を評価します。コンサートの来場者数が減少しており、幅広い世代の関心を引く企画と周知方法の工夫により、来場者数の回復・増加を図ることが望まれます。 ・ とても楽しみに利用させていただいています。				

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こどもを対象とした文化事業の実施 (施策29)	担当課			
		文化・スポーツ課			
内 容	学校アウトリーチ事業やこども向けの演劇公演など、こどもたちが文化に親しみ身近に感じてもらう機会を提供します。				
達 成 状 況	・プロのアーティストに依頼し、学校へのアウトリーチ事業を実施しました。 ・こどもたちにより幅広い文化芸術に触れる機会を提供できるようこども向けの演劇公演・アーティストによるワークショップなどを実施しました。 ・生涯にわたって音楽文化に親しみ、心豊かな人間性を育むきっかけとなることを目的として、中部フィルハーモニー交響楽団による幼稚園・保育園・認定こども園、小中学校へのオーケストラ巡回演奏を実施しました。				
	【学校へのアウトリーチ事業】				
	分野	アーティスト名	訪問校	対象学年	人数
	落語	瀧川鯉三郎	小木小学校	4～6 年	154 人
			村中小学校	4～6 年	158 人
		小計			312 人
	音楽 ※和楽器	三門祐輝 他	小牧小学校	2・3 年	229 人
	講談	玉田玉秀斎	一色小学校	5・6 年	150 人
			北里小学校	3～6 年	251 人
		小計			401 人
	合計			942 人 (R6 889 人)	
	【こども向けの演劇公演など】				
	公演名	会場	来場者数		
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 第21回こまき山おやこラリー	小牧山 他	99 組 (R6 118 組)		
	TEAM パフォーマン斯拉ボ×ガチャピン・ムックのサーカスエコロジカル	市民会館	364 人		
	市制70周年記念 小牧将棋まつり	市公民館	約250 人		
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 「GIANT STEPS とつくろう！あそぼう！ パクパクおばけ」	青年の家、創垂館	29 人		
	(次の表に続く)				

点検評価シート（令和7年度実績）

	(前の表の続き)						
	<table><tr><td>小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧に！みんなの分身 100 人あつま る！</td><td>市公民館</td><td>13 人</td></tr><tr><td>絵本 de クラシック 「ブレーメンの音楽隊」</td><td>東部市民センタ ー</td><td>192 人</td></tr></table>	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧に！みんなの分身 100 人あつま る！	市公民館	13 人	絵本 de クラシック 「ブレーメンの音楽隊」	東部市民センタ ー	192 人
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧に！みんなの分身 100 人あつま る！	市公民館	13 人				
	絵本 de クラシック 「ブレーメンの音楽隊」	東部市民センタ ー	192 人				
	【幼稚園・保育園等音楽鑑賞事業、小中学生オーケストラ演奏鑑賞事業】						
<table><tr><td>開催日</td><td>5 月～11 月</td></tr><tr><td>会場</td><td>市内 21 保育園、9 幼稚園、2 こども園、 5 小学校、3 中学校</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>延べ 6,926 人（R6 延べ 7,433 人）</td></tr></table>	開催日	5 月～11 月	会場	市内 21 保育園、9 幼稚園、2 こども園、 5 小学校、3 中学校	来場者数	延べ 6,926 人（R6 延べ 7,433 人）	
開催日	5 月～11 月						
会場	市内 21 保育園、9 幼稚園、2 こども園、 5 小学校、3 中学校						
来場者数	延べ 6,926 人（R6 延べ 7,433 人）						
【ジュニア育成文化活動事業 夏休み子ども文化体験教室】							
	<table><tr><td>開催日</td><td>7 月～8 月</td></tr><tr><td>会場</td><td>市公民館、中部公民館</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>159 人（R6 167 人）</td></tr></table>	開催日	7 月～8 月	会場	市公民館、中部公民館	参加者数	159 人（R6 167 人）
開催日	7 月～8 月						
会場	市公民館、中部公民館						
参加者数	159 人（R6 167 人）						
	【ジュニア育成文化活動事業 伝統文化指導事業 学校派遣】						
	<table><tr><td>開催日</td><td>通年</td></tr><tr><td>会場</td><td>市内小・中学校</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>延べ 2,246 人（R6 延べ 2,460 人）</td></tr></table>	開催日	通年	会場	市内小・中学校	参加者数	延べ 2,246 人（R6 延べ 2,460 人）
開催日	通年						
会場	市内小・中学校						
参加者数	延べ 2,246 人（R6 延べ 2,460 人）						
課 題	・今後とも文化団体や学校との協働により、こどもたちが文化芸術に親しむ機会を拡充するとともに、こどもにとって身近で継続的な文化活動を行える環境を整える必要があります。						
今後の取組 の 方 向 性	・こどもたちのニーズを把握した上で、アウトリーチや鑑賞事業を充実するとともに、将来にわたってこどもたちが継続的に文化芸術活動に親しむ機会を確保するために、中学校部活動の地域展開について検討していきます。						
評 価 委 員 の 意 見 等	・本市の大きな特長として中部フィルハーモニー交響楽団の幼保小中への巡回公演があり、十分な鑑賞の機会が設けられています。今後は、少年少女合唱団や、文化部活動の地域展開を支援する体制づくりが急務だと思います。 ・学校アウトリーチや巡回演奏など、学校と協働した文化体験の機会提供を評価します。身近で継続的な文化活動の環境づくりが重要であり、ニーズ把握に基づく事業充実と、部活動の地域展開を見据えた検討が望まれます。						

点検評価シート（令和７年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民文化活動への支援（施策３１）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	市内文化団体の活動の活性化、環境づくりが図られるようサポートを行います。	
達 成 状 況	【活動の場の提供】 - 初めての試みとして、「こまき日本文化の日『文化百花』～みんなで文化の花を咲かせましょう」を開催し、地域の方々（書道連盟、茶道連盟、華道連盟）の協力を得ながらともに作り上げる市民参加型の地域密着イベントとして、こどもから大人まで広く伝統文化に親しんでいただける機会を提供しました。 【広報活動支援】 - 団体のイベント情報などを、市や文化財団のホームページに掲載し、広報わくわくガイドでのイベント周知等、広報支援を行いました。 【市民会館ホールの有効活用】 - 小牧市文化協会（加盟団体・構成団体）に対し、平日に利用の無い時間帯の市民会館ホール舞台を有効活用すると共に、活動支援の一環として、練習場所として、安価に貸出しができる制度を整えました。	
課 題	団体の高齢化や固定化、活動の分散、若者の受け皿不足などの課題が見受けられます	
今後の取組の方向性	市、文化財団、文化協会、学校などと連携を深め、情報の集約や発信、文化の継承と次世代育成、展示や発表の場の創出など多角的に市民文化活動の支援に取り組みます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	- 施策２８「スポーツ施設の環境整備」がスポーツ分野にはあるように、施策〇「文化施設の環境整備」を施策として挙げ、市民文化活動がのびのびとできる充実した環境を整備していただきたいと思います。とりわけ、市民音楽活動は音が出るだけに防音が整った活動場所と楽器保管場所の確保が急務だと思います。 「文化百花」など市民参加型の新たな試みや、市民会館ホールの貸出制度の整備を評価します。団体の高齢化や若者の受け皿不足を踏まえ、関係機関が連携し、文化の継承と次世代育成、発表の場の創出に取り組むことが課題です。 - 小牧市で日本の文化の継承などの活動されている方をより多くの人に知ってもらえるような制度を構築できるといいと思います。 - 活動支援というのは、活動場所の提供や物品等の資金援助、活動にあたっての知恵やアイデアを専門的な立場で与えることだと思います。市民文化を育てるためには、市民活動を「育てる」という視点や姿勢を行政に持っていただく必要があると思います。	

点検評価シート（令和7年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財団の活動支援（施策32）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	こまき市民文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画、文化団体の活動のサポート、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。	
達 成 状 況	・「市民がともにつくる文化を支え、文化をとおして人々に心の豊かさを提供します」というこまき市民文化財団のビジョンに基づき、財団職員の専門性を活かしながら多くの市民により良質な文化芸術を提供するために、支援を行いました。 【主な活動支援内容】 ・文化事業の委託 ・自主事業への補助金交付 等 【主な文化事業概要】 ①普及事業 鑑賞や体験を通して、良質な文化に触れあう機会を提供し、文化・芸術に興味を持つきっかけをつくる。 （幼稚園・保育園等音楽鑑賞事業、小中学生オーケストラ演奏鑑賞事業、サンデーコンサート・モーニングコンサート、「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」バリアフリー演劇、こまぶんフェスタ 2025、吹奏楽フェスティバル 2025、こども・夢チャレンジ文化事業、アウトリーチ事業、音楽指導事業等） ②伝統文化事業 伝統文化に触れるための鑑賞や体験の機会を提供し、歴史の中で受け継がれてきた豊かな日本文化の継承に寄与するとともに、伝統文化に関する理解促進を図る。 （こまき日本文化の日「文化百花」～みんなで文化の花を咲かせましょう、小牧市制 70 周年記念 桂宮治親子寄席・独演会、市制 70 周年記念 小牧山薪能、ジュニア育成文化活動事業） ③舞台公演事業 芸術文化を身近に感じていただくとともに、あらゆる世代を対象に気軽に足を運んでいただけるよう、多彩な鑑賞機会を提供する。 （TEAM パフォーマンスラボ×ガチャピン・ムックのサーカスエコロジカル、劇団四季ミュージカル『赤毛のアン』、ANRI LIVE TIMELY!!、キーウ・クラシック・バレエ 白鳥の湖 全 2 幕、KAORI PARADISE 2025、尾崎裕哉 Concert2025、東京楽竹団コンサート～竹楽器で奏でる癒しのハーモニー～、カキンツハルカ LIVE2026、絵本 de クラシック「ブレーメンの音楽隊」、吉本新喜劇出前ツアー2025 愛知公演～CBC コラボスペシャル～）	

点検評価シート（令和7年度実績）

	④美術事業 市民の創造的な文化活動を支援するための発表の場を提供し、身近な人々の作品を鑑賞することで文化活動の裾野を広げる事業の取り組みを進める。 （仲宗根 知子展 COSMOLOGY OF THE EARTH -天地の紋、第 66 回小牧市民美術展、巡回ミュージアム、ジュニア美術クラブ育成事業） ⑤広報事業 財団が行う文化事業等の情報をより早く、広く周知するため、ホームページやLINE・InstagramをはじめとするSNS、動画配信、メディアなどを活用して積極的に発信する。 （情報誌「こまぶん」発行事業、動画配信、巡回バス車内広告・ホームページ・SNSの発信、友の会運営事業等）
課 題	・限られた予算や人員の中で、多種多様な文化事業を継続的に展開していく必要があるため、運営にあたり問題点等は共有し合い、常に改善策を模索していく必要があります。
今後の取組の方向性	・市と財団が相互に連携・協力し、市民に質の高い文化事業の提供と文化振興の推進に取り組みます。
評価委員の意見等	・財団のビジョンに「市民がともにつくる文化を支え…」とありますが、5つの事業に市民文化活動を支える事業がありません。高齢化が進み、先行きに不安を抱える市民文化活動に対して、専門的な立場でのサポートや、相談できる組織的な仕組みができるとよいと思います。 ・財団が発足して10年目を迎え、財団がこれまでをどのように振り返り、次の10年で何を目指そうとしているのかを示していただきたいと思います。 ・財団のHPに市民活動のイベントを載せていただくようになりましたが、財団主催に注力されている印象です。同じ市民文化を支えるものとして市民活動も大きく分かりやすく扱っていただきたいと思います。 ・普及・伝統文化・舞台・美術・広報の各事業の専門性を生かして展開している点を評価します。限られた予算・人員の中で継続するため、市と財団が課題を共有し、連携・協力により質の高い事業を提供し続けていただきたいと思います。

基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

- ☞ 郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。
- ☞ 市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財の指定・保護（施策 3 3）	担当課
		文化財課
内 容	新たに保護すべき文化財などを見出す調査を行い、指定・保護を進めます。	
達 成 状 況	・令和 8 年 2 月 17 日（火）に小牧市文化財保護審議会において、市内小木地区に所在する 3 寺院について、所蔵する文化財の現地調査を行いました。 ・今年度の現地調査では、制作年代が比較的新しいものや後世の修復における改変が大きいものなどが多く、指定物件候補となる文化財はありませんでした。 ・涅槃図等の絵画では、後世の修復による改変が大きいものの、由緒や修理履歴がはっきりしており、寺院の歴史を語る貴重な資料の存在を確認しました。	
課 題	・神社や寺院が所蔵する資料以外にも、新たに保護すべき文化財の調査対象を広げていく必要があります。 ・指定候補物件には至らないものの貴重な文化財が現地調査では見つかっており、これらの文化財も保護していく必要があります。	
今後の取組の方向性	・指定すべき文化財の調査範囲を広げて実施します。 ・文化財の範囲は幅広く種類も様々であることから、市内にある有形・無形の文化財の歴史や価値などについて、パンフレットやガイド冊子をはじめ、市ホームページ、さらに令和 8 年度にラピオビル 4 階に新たに開設予定のこまき歴史発見館などにおいて周知に努めることで、文化財の保護・保存の必要性に対する市民の関心や理解を深め、新たな文化財の発掘につなげていきます。 ・市として保護すべき文化財の時代的・価値的要件を整理し、その対象範囲について検討します。 ・現時点では指定には至っていないものの、貴重な文化財を将来にわたって保存するため、その価値を明らかにする必要があります。	
評価委員の意見等	・ラピオの 4 階に開設予定のこまき歴史発見館の有効活用について、多くの市民（一般・子ども・家族・学生等）や校外学習・遠足等の団体（個人・グループではなく多人数）が見学・学習で利用できることを期待しています。	

点検評価シート（令和7年度実績）

	・新たに保護すべき文化財を見出す調査の継続を評価します。今年度は指定候補に至らなかったものの貴重な資料を確認しており、調査範囲の拡大と、こまき歴史発見館等を活用した周知による新たな発掘が望まれます。
--	---

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	古文書・歴史に関する講座等の開催（施策 3 4）	担当課
		文化財課
内 容	小牧市の歴史や文化財への興味・関心を高めるため、古文書や歴史に関する講座の開催をはじめ、文化財巡りや歴史資料の展示・解説などを行います。	
達 成 状 況	・小牧の歴史への関心を高めることをねらいとして、「小牧市歴史文化基礎講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 対象：一般 受講料：各回 300 円 開催場所：小牧市役所東庁舎 大会議室（定員各回 150 人）	
	開催日	内 容
	6月28日 (土)	第1回 講師：愛知県埋蔵文化センター 調査員 川添 和暁 氏 「尾張のあけぼの～縄文時代の知恵と暮らし～」
	7月5日 (土)	第2回 講師：NPO 法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク理事長 赤塚 次郎 氏 「外山銅鐸・三ツ山古墳獣帯鏡から見えてくる風景～小牧・大山川水系の弥生・古墳時代～」
	7月12日 (土)	第3回 講師：名古屋工業大学名誉教授 麓 和善 氏 「小牧山と創垂館の魅力」
	・古文書に親しむきっかけをつくることで、歴史への興味関心を高めることをねらいとして、「子ども古文書寺子屋」・「古文書基礎講座」・「古文書実践講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 開催場所：まなび創造館学習室（定員 20 人）	
	開催日	内 容
	7月27日 (日) 8月3日 (日)	「子ども古文書寺子屋」（連続2回） 一筆書きや文字カルタでくずし字の基礎を学び、戦国時代から江戸時代に書かれた書状や書き物を読みました。 講師：小牧市古文書調査会 酒向道夫 氏 対象：小学4年生～6年生 受講料：無料

点検評価シート（令和 7 年度実績）

基礎講座開催場所：まなび創造館多目的室（定員 40 人） 実践講座開催場所：まなび創造館多目的室（定員 50 人）		
開催日	内 容	受講者数
9月6日・ 13日・20日・ 27日 い ず れ も (土)	「古文書基礎講座」（連続 4 回） 初心者の方を対象に、くずし字や変体仮名など古文書の基礎を分かり易く解説し、百人一首・手紙・武家諸法度・証文・掛け軸など身近な史料を読みました。 講師：小牧市古文書調査会 酒向道夫 氏 対象：一般 受講料：850 円	30 人
1月10日・ 17日・24日・ 31 日 い ず れ も (土)	「古文書実践講座」（連続 4 回） 講師の助言を受けながら、自分の力で古文書を読み解く力をつけることを目指し、江戸時代の講談師がまとめた宝暦郡上騒動の話の読解に挑戦しました。 講師：小牧市古文書調査会メンバー 対象：一般 受講料：850 円	43 人
・ 民俗資料保存施設に保存している民俗資料等を活用し、米作りの農具を中心に昔の農作業の様子や当時の人々の工夫を知る企画展示として、「これな～んだ?! 昔の農具」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 対象：小学生～一般 入場料：無料 開催場所：中央図書館 1 階イベントスペース		
開催日	内 容	入場者数
8 月 18 日 (月) ～ 24 日 (日)	企画展「これな～んだ?! 昔の農具」 農作業の効率が上がるように進化してきたさまざまな農具を展示するだけでなく、絵や写真などで使い方をわかりやすくパネル展示しました。また、探究学習としても活用できるワークシートの用意や、米作りに関するクイズを取り入れ、興味関心を高める展示を心がけました。昨年度好評であった体験コーナーとして、今年度は玄米について白米にする精米体験を行いました。	462 人
・ 小学校で郷土について学習することを受け、さらに発展的に郷土の歴史や地理・公民的内容への興味関心を高めるため、「こまき検定」を市制 70 周年記念事業として開催しました。あわせて、より		

点検評価シート（令和 7 年度実績）

多くの方にも郷土への関心を高めていただけるようホームページで問題文を紹介しました。（小牧市文化財資料研究会委託事業）

開催場所：小牧市役所本庁舎 601 会議室（定員 50 人）

開催日	内 容	参加者数
11月3日 (月・祝)	「こまき検定」 小牧市の歴史・地理等に関する検定 (全 30 問中 21 問以上の正解で合格。問題の難易度は小学 5 年生程度) 対象：小学生・中学生 参加費：無料	29 人

- ・市内各地域に残る文化財を知ってもらい、地域への愛着を高める機会とするため、三ツ淵の古刹・正眼寺周辺の旧道を巡る講座「文化財巡り」を企画しました。（愛知文教大学委託事業）（定員 30 人）

開催日	内 容	参加者数
11月9日 (日)	「文化財巡り」 雨天のため、予定していた文化財の解説を正眼寺にて行うとともに、釈迦涅槃図写真や誕生仏レプリカを間近で見学しました。 案内人：西川菊次郎氏ほか文化財地図作成委員 対象：一般 参加費：500 円	20 人

- ・「城郭建築に恋をして」というテーマのもと、小牧とゆかりのある信長・家康に迫ることをねらいとして「歴史講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）

対象：一般 参加費：各回 300 円

開催場所：まなび創造館あさひホール（定員各回 300 人）

開催日	内 容	受講者数
11 月 15 日 (日)	第 1 回 講師：岩崎城歴史記念館 学芸員 内 貴 健太 氏 「三河中入と城郭」	147 人
11 月 22 日 (土)	第 2 回 講師：公益財団法人日本城郭協会 常務理事 加藤 理文 氏 「小牧・長久手合戦後の徳川家康の城郭戦略」	153 人

- ・市制 70 周年記念事業として、これまでの史跡小牧山の発掘成果を踏まえ、織田信長や徳川家康にとっての小牧山城の重要性に迫ることをねらいとして特別記念講演を開催しました。

点検評価シート（令和7年度実績）

	対象：一般 参加費：無料 開催場所：小牧市市民会館大ホール（定員 1,300 人）						
	<table><tr><td>開催日</td><td>内 容</td><td>受講者数</td></tr><tr><td>11 月 29 日 (土)</td><td>講師：名古屋市立大学高等教育院教授・奈良大学特別教授 千田 嘉博 氏 「織田信長・徳川家康の小牧山城」</td><td>962 人</td></tr></table>	開催日	内 容	受講者数	11 月 29 日 (土)	講師：名古屋市立大学高等教育院教授・奈良大学特別教授 千田 嘉博 氏 「織田信長・徳川家康の小牧山城」	962 人
開催日	内 容	受講者数					
11 月 29 日 (土)	講師：名古屋市立大学高等教育院教授・奈良大学特別教授 千田 嘉博 氏 「織田信長・徳川家康の小牧山城」	962 人					
課 題	- 古文書に親しむきっかけづくりとして開催する「古文書講座」の受講者は、増加している一方で、「歴史文化基礎講座」の参加者は固定化する傾向にあり、年々減少しています。 - 若い世代が小牧市の歴史に興味を持つきっかけとなるよう、市内に残る貴重な文化財や歴史に気軽に触れられるような機会を増やしていく必要があります。						
今後の取組 の 方 向 性	- こどもを対象とした古文書講座について、こどもが興味・関心を持ちそうな戦国武将にちなんだ題材の選定や、カルタなど遊びの要素を取り入れるなど工夫することで、参加者から、「とてもおもしろかった」「楽しかった」という感想が寄せられていることから、引き続き工夫して実施します。 - 大人向けの古文書講座については、地域の歴史に興味・関心を持ち親しんでもらえるよう、地元に残る古文書を題材に取り入れ、実施していきます。 - 歴史基礎講座については、若い世代を中心に市内の歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうきっかけとなるよう、テーマや講師、開催方法や実施回数などについて見直しを図るとともに、SNSを活用した情報発信を行っていきます。 - 市が所有・保管する民具等を活用した企画展については、昔の人々の知恵や工夫を凝らした暮らしの様子を知る機会となるよう、こどもをはじめ、より多くの方に興味・関心を持ってもらえるようなテーマ設定や、展示内容、体験活動の充実を図り、引き続き実施します。						
評 価 委 員 の 意 見 等	- 講座の参加者数から、歴史への関心の高さが分かります。特に、図書館のイベントスペースは、別の目的での来場者の関心も引くことができますので、効果的と思います。 - 多世代が郷土の歴史に親しむ多彩な講座を評価します。歴史基礎講座の参加者が固定化・減少する中、こども向けの工夫やSNSの活用による若い世代の関心喚起と、図書館の郷土資料との連携が望まれます。						

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進（施策 3 5）	担当課 小牧山課
内 容	史跡小牧山主郭地区のうち、令和 3 年度から進めてきた小牧山歴史館周囲の石垣復元などの史跡整備については、令和 7 年度の整備により完成する見込みです。また、大手道の整備に向けた発掘調査を引き続き行います。 あわせて、現地を訪れた来訪者が、小牧山城の価値や魅力についてより深く理解できるような整備に努めます。	
達 成 状 況	・小牧山山頂（小牧山歴史館南東側箇所）において、織田信長が築いた 2 段の石垣復元を主とした史跡整備（整備面積約 768 m²）を行いました。 ・山頂を取り巻くように築かれた 2～3 段の石垣等の復元整備が完了したことにより、史跡小牧山の歴史的価値や魅力が顕在化し、より多くの人に、その価値を周知することができるようになりました。 ・織田信長築城当時の石垣や建物の様子を C G で再現し、現在の風景と重ね合わせた音声解説付きの映像を、現地を訪れた来訪者が、スマートフォンで Q R コードを読み込んで視聴できる解説板の設置を行いました。（山頂周辺 5 か所）【市制 70 周年記念事業】 ・全国の史跡整備に取り組む市町村で組織する全国史跡整備市町村協議会の第 60 回大会を小牧市で開催し、史跡小牧山の整備状況について、広く P R に努めました。【市制 70 周年記念事業】 ・山頂周辺の景観向上および樹木の適切な管理のため、樹木の剪定を行いました。【市制 70 周年記念事業】 ・小牧山の主郭に至る織田信長が築いた大手の登城路において、登城路の構造や、道幅などを明らかにするため、史跡小牧山大手道第 2 次発掘調査を実施しました（調査面積 395.9 m²） ・調査では、大手の登城路の東脇に石垣によって造り出された平坦な空間や、大手登城路沿いの壁面は、上半は石垣、その下が土と岩盤を人工的に切り立てている構造をしていることがわかりました。また、一部の調査区では、現在の道から約 1.5m 下に永禄期の両端に石積が築かれている登城路を確認しました。 ・令和 7 年 12 月 13 日（土）に現地説明会を行い、350 人が参加しています。	

点検評価シート（令和7年度実績）

	・令和8年3月末で廃止となる小牧市青年の家の解体・撤去に伴い、その周辺について、史跡としての価値や魅力が顕在化するように、跡地を含めた史跡小牧山創垂館エリア整備基本計画を策定しました。
課 題	・石垣や岩盤の復元整備が完了した箇所については、点検等を定期的に行い、適切な維持管理・補修を計画的に行っていく必要があります。 ・大手道エリアについては、信長の時代と家康の時代など、時代が重層する遺構が確認されていることから、発掘調査結果を精査し、関係機関とよく協議したうえで、適切な復元整備計画を立案し、整備を進めていく必要があります。 ・復元整備したエリアについては、より多くの方に来訪いただき、その価値や魅力を理解していただけるよう努める必要があります。 ・青年の家跡地周辺については、青年の家の解体・撤去後、史跡としての価値向上につながる整備を実現する必要があります。 ・令和2年3月に策定した史跡小牧山の保護にむけての最上位計画である「史跡小牧山保存活用計画」は、策定から6年が経過し、発掘調査結果による新たな知見や現状との相違個所が生じているため、見直しに着手する必要があります。
今後の取組の方向性	・大手道エリアの史跡整備を計画的に推進します。 ・復元整備した岩盤や石垣等の適切な維持管理について、先進事例等を参考に調査研究していきます。 ・史跡整備の完了したエリアを中心に、史跡小牧山の歴史的価値や魅力をより分かりやすく伝えられるよう、CGビューアーの増設を含め、より適切な方法を検討のうえ実施していきます。 ・創垂館エリア（青年の家が解体された跡地と創垂館を含めたエリア）の史跡整備に取り組みます。 ・「史跡小牧山保存活用計画」の自己点検に着手し、その結果を踏まえて改定の範囲および手法について検討を進めます。
評価委員の意見等	・小牧山についてはテレビなどでも見かける機会が増えており、市民や市民以外の関心も高いと思います。小牧山は目立ちますが、アクセスや駐車場などわかりやすい案内が必要に思われます。 ・石垣復元整備の完了やQRコードによるCG・音声解説の設置など、史跡の価値を顕在化する整備を評価します。時代が重層する遺構は関係機関と協議のうえ適切な復元整備計画を立案し、計画的に進めていただきたいと思います。

点検評価シート（令和 7 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発（施策 3 5）	担当課												
		小牧山課												
内 容	小牧山城の発掘調査の成果や史跡整備の情報など、タイムリーな企画展示や講座等の開催に努めるとともに、来館者への解説の充実を図ります。													
達 成 状 況	・小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において、指定管理者である（一財）こまき市民文化財団により下記のとおり各種事業を行いました。 ●小牧山歴史館企画展（入場無料） 「-緑の宝庫- 小牧山の樹木たち」 期 間 1 月 17 日（土）～3 月 15 日（日） 会 場 1 階 無料エリア 来場者数 20,703 人（総入場者数） ●れきしるこまき企画展（入場無料） 「史跡小牧山大手道発掘調査と石垣復元パネル展」 期 間 4 月 26 日（土）～6 月 11 日（水） 会 場 企画展示・資料室 来場者数 3,466 人（企画展示・資料室入場者数） 「津田応助と小牧山」 期 間 10 月 15 日（水）～12 月 25 日（木） 会 場 企画展示・資料室 来場者数 6,968 人 「史跡小牧山大手道発掘調査パネル展」 期 間 2 月 14 日（土）～3 月 22 日（日） 会 場 企画展示・資料室 来場者数 6,416 人 ●小牧山歴史館事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>内容</th><th>参加者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月 20 日（日） 10 月 19 日（日） 3 月 22 日（日）</td><td>戦国体験 体験料：無料 定員：なし</td><td>1,779 人</td></tr> <tr> <td>5 月 3 日（土・祝） 11 月 3 日（月・祝）</td><td>小牧山城茶会 一服：300 円 定員：各回 200 人</td><td>397 人</td></tr> <tr> <td>毎週土曜日・日曜日</td><td>忍者衣装試着体験 体験料：500 円</td><td>53 人</td></tr> </tbody> </table>		開催日	内容	参加者数	4 月 20 日（日） 10 月 19 日（日） 3 月 22 日（日）	戦国体験 体験料：無料 定員：なし	1,779 人	5 月 3 日（土・祝） 11 月 3 日（月・祝）	小牧山城茶会 一服：300 円 定員：各回 200 人	397 人	毎週土曜日・日曜日	忍者衣装試着体験 体験料：500 円	53 人
開催日	内容	参加者数												
4 月 20 日（日） 10 月 19 日（日） 3 月 22 日（日）	戦国体験 体験料：無料 定員：なし	1,779 人												
5 月 3 日（土・祝） 11 月 3 日（月・祝）	小牧山城茶会 一服：300 円 定員：各回 200 人	397 人												
毎週土曜日・日曜日	忍者衣装試着体験 体験料：500 円	53 人												

点検評価シート（令和7年度実績）

●れきしるこまき事業

開催日	内容	参加者数
10月11日（土） ～12月14日（日）	ぐるぐるめぐる！ 小牧山スタンプラリー2025 参加料：入館料のみ	916人

●れきしるこまき講座・フィールドワーク他

開催日	演題	講師	受講者数
4月26日（土）	れきしるこまき フィールドワーク 「小牧山がおもしろい！大人のための自然観察会」	清水豊 （自然観察指導員）	19人
7月19日（土）	れきしるこまき ワンコインコンサート「信長も聴いたクラシック音楽～リュートの音色にのせて～」	中川祥治 （リュート奏者）	30人
8月3日（日）	れきしるこまき 親子講座「小牧山城の発掘品にふれてみよう！」	小牧山課職員、 れきしるこまき職員	16人
11月16日（日）	れきしるこまき フィールドワーク「秋の小牧山 わくわく史跡体験【こども編】」	れきしるこまき職員	13人
1月10日（土）	れきしるこまき 講座「超現代語訳 小牧山城」	ブロードキャスト！！ 房野史典（吉本興行所 属芸人）	57人

点検評価シート（令和7年度実績）

	●れきしるこまきワークショップ <table><tr><th>開催日</th><th>演題</th><th>講師</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>12月6日（土）</td><td>「戦国武将なりきり体験～ダンボール甲冑をつくろう！～」</td><td>佐野翔平（火縄銃射撃競技選手、「伝統屋暁」代表）</td><td>15人</td></tr></table>	開催日	演題	講師	受講者数	12月6日（土）	「戦国武将なりきり体験～ダンボール甲冑をつくろう！～」	佐野翔平（火縄銃射撃競技選手、「伝統屋暁」代表）	15人
開催日	演題	講師	受講者数						
12月6日（土）	「戦国武将なりきり体験～ダンボール甲冑をつくろう！～」	佐野翔平（火縄銃射撃競技選手、「伝統屋暁」代表）	15人						
課題	・来訪者数は、令和5年度に歴史館のリニューアルオープンや大河ドラマ「どうする家康」放映の効果で、飛躍的に増加したものの、令和6年度、令和7年度では減少しています。 ・来訪者へのアンケート調査結果では、9割以上が市外からの来訪者で、施設を知ったきっかけは、新聞、テレビ、情報誌をはじめ、施設のHPや口コミなど多岐にわたっており、幅広く情報発信する必要があります。								
今後の取組の方向性	・史跡小牧山の史跡整備が進んできたことにより、その歴史的価値や魅力が、テレビや雑誌等のメディアで広く取り上げられ認知度が大きく向上しており、また、視覚的にも復元した石垣の迫力が伝わりやすくなってきたことから、映像を活用したYouTubeやインスタグラムなどについて、指定管理者である（一財）こまき市民文化財団とも連携して広報活動に取り組むなどし、来訪のきっかけづくりに努めていきます。 ・令和8年1月より放送が開始された大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送と連動した企画展示等を開催するなど、時機を捉えた魅力ある展示およびイベントの実施について、指定管理者と協議し実施していきます。								
評価委員の意見等	・小牧市民にとって小牧といえば小牧山というほど、小牧山は小牧市のシンボルであり、誇るべき存在です。こどもの頃に、誰でも1度は遠足や花見などで、親しんでいるものです。しかし、小牧山の魅力についてどれだけの市民に浸透しているかは疑問です。もっと多くの人に、歴史・自然・健康づくりなど様々な魅力について知ってもらうため、体感してもらうためにどうしたらよいか考えていく必要があります。 ・企画展や講座など、発掘成果や整備情報をタイムリーに発信する事業を評価します。来訪者の9割が市外という実態を踏まえ、映像を活用した広報や大河ドラマと連動した企画により、来訪のきっかけづくりが望まれます。								